2007年度

講　義　計　画

桃山学院大学

講　義　計　画

科目名			
アジア経済論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期集中	4単位	唐（トウ）　成（セイ）

【講義概要・学習目標】
本講義は①アジア経済を多角的に分析すること、②アジアの経済パフォーマンスの特徴を分析すること、③世界の中のアジアの実態を理解すること、を目的としている。具体的に、次の５つの分析視点から、すなわち、第１に、東アジアの著しい経済発展、第２に、ベトナムをはじめいくつかの国が計画経済から市場経済への移行経済、第３に、日本と東アジアの経済関係、第４に、アジア経済の課題（経済危機、環境問題、貧富格差など）、第５に、地域統合へ向けての動き、という内容を中心として、アジア諸国の経済発展の経緯及び新たな動向を解説し、これからのアジア経済の行方を考察する。

【講義計画】
・ガイダンス：講義目的、概要および進め方・アジア経済の入門知識
・世界の中のアジア経済
・東アジアの工業化
・アジアNIEs諸国の経済発展
・東南アジア（ASEAN）諸国の経済
・インド経済
・移行経済とベトナム経済
・中国経済
・グローバル化と東アジア経済
・日本と東アジアの経済関係
・アジア通貨危機
・アジアの環境問題
・経済発展と所得格差
・地域統合の意義と課題
・期末テスト

【成績評価の方法】
出席状況（正式な欠席届は受理する）と授業内テストにより総合的に評価する。
登録したものの未履習の場合は「０点」となるので注意のこと。

【教科書】
毎回講義用プリントを配布する。テキストは特に指定しない。ただし、参考文献の中から１冊ほど読んでおくこと。

【参考文献】
北原淳・西沢信善『アジア経済論』ミネルヴァ書房、2004年
原洋之介『現代アジア経済論』岩波テキストブックス、2002年。
渡辺利夫編『アジア経済読本』「第３版」東洋経済新報社、2003年。

科目名			
アジア文化研究－イスラームの過去と現在			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	今澤浩二

【講義概要・学習目標】
現在、イスラーム教徒は14億人を超え、十数年後には世界人口の３分の１を占めるようになるとさえ言われる。イスラーム世界が現在の世界情勢に与える影響も大きくなっている。
本講では、まず、こうしたイスラーム世界がどのようにして興り発展してきたのかを、歴史を振り返りながら考える。次に、それをふまえて、現代のイスラーム情勢について考察を加える。

【講義計画】
序　　イスラームとはなにか
第１部　イスラーム世界の過去
（１）イスラーム世界の成立
（２）イスラーム世界の発展
（３）トルコ民族の活躍
（４）オスマン帝国
（５）サファヴィー朝とムガル帝国
（６）イスラーム世界の植民地化
（７）第１次世界大戦後のイスラーム世界
第２部　イスラーム世界の現在
（１）イスラーム「原理主義」
（２）パレスチナ問題
（３）イラク問題

【成績評価の方法】
出席点（最低20回以上の出席が必要）と学期末試験によって、総合的に評価する。
初回の授業で、講義内容や成績評価の方法などについて詳しく説明するので、必ず出席すること。

【教科書】
なし

【参考文献】
授業中に随時、紹介する。

科　目　名			
アジア文化研究―インドネシアの開発と人口			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	深　見　純　生

【講義概要・学習目標】

人口という観点から東南アジア、とくにインドネシアという地域の理解をめざす。

インドネシアの社会と文化を理解するための重要な鍵は、開発の歴史と人口に関わる諸問題である。人口がインドネシア理解の鍵になる理由は、インドネシアが世界第４位の２億２千万という大きな人口を持つこと、それが不均等に分布し、とくにジャワ島の農村に滞留したことにある。

東南アジアは、モンスーンアジアという世界人口分布の中心にあるにもかかわらず、小人口世界である。そのなかでジャワ島は巨大人口を持つという複雑な構造がある。その生態学的な背景と人口増加のプロセスを考えてみよう。最後に現在のインドネシアの人口問題の核心であるジャワ島農村の貧困問題の動向を検討してみよう。

なお、視覚的理解のために適宜ビデオを用いる。なおまた、受講生はインドネシアに関する初歩的な知識（あるいは強い関心）のあることが望ましい。

【講義計画】

1．モンスーンアジアの中の東南アジア
2．東南アジアの地域特性12ヶ条とインドネシア
3．小人口世界としての東南アジア
4．2000年国勢調査からみたインドネシア
5．ジャワの中心性―生態学的背景
6．ジャワ島の人口増加の歴史
7．近年の動向―緑の革命とジャワ島農村の人口問題

【成績評価の方法】

期末テストおよび時々の小レポートを総合して評価する。

【教科書】

特定の教科書は用いない。いわゆるノート講義であり、適宜資料を配付する。

【参考文献】

池端雪浦編『東南アジア史２島嶼部』山川出版社 1999
京都大学東南アジア研究センター編『事典東南アジア　風土・生態・環境』弘文堂 1997
坪内良博『小人口世界の人口誌』京都大学学術出版会 1998
その他、授業の中で示す。

科　目　名			
アジア文化研究－中国の知的遺産			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	串　田　久　治

【講義概要・学習目標】

漢詩でスローライフ

本講義は中国の知識人の生きざまを通して、人生の悲哀を克服して心豊かに生きる方法を模索する授業です。

言うまでもなく、中国の知識人とは、官僚（政治家）であると同時に詩人であり、画家であり、文章家でもあります。彼らが政治的挫折を経験し、あるいは家族の不幸に遭遇した時、何を思い何を考えたか、人生の悲しみ・苦しみをいかにして乗り越えて生を全うしたのかを知り、ひとりひとりの将来に資することがこの授業の目的です。

そのため、本講義はただ聞いているだけの講義ではありません。学生諸君の積極的なアプローチと深い思索が要求されます。具体的には、学生諸君が数名のグループに分かれ、グループで討議したことを発表し、全員でディスカッションし、その後に各自が自分の考えをまとめてレポートして提出することになります。

【講義計画】

第一部　生きる悲しみ・苦しみ
　1　「故郷」
　2　出会いと別れ
　3　「敗北」
　4　「正義」
第二部　生きる喜び・楽しみ
　1　恋と結婚
　2　家族
　3　飲食
　4　四季
　5　老いのよろこび

【成績評価の方法】

本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。出席・レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、毎回小レポート提出が義務づけられ、小レポート提出不良者は最終レポート提出の資格を失います。

【教科書】

串田久治・諸田龍美著『ゆっくり楽に生きる　漢詩の知恵』（学研）定価1400円

【参考文献】

林語堂著『支那のユーモア』（岩波新書）
林語堂著『中国＝文化と思想』（講談社学術文庫）
宮崎市定著『中国に学ぶ』（中公文庫）
串田久治著『儒教の知恵－矛盾の中に生きる』（中公新書）
串田久治著『中国古代の「謡」と「予言」』（創文社）
串田久治著『天安門落書』（講談社現代新書）
KUSHIDA’S WEB SITE
http://www1.odn.ne.jp/kushida

科目名			
アメリカ経済論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期集中	4単位	中本　悟

【講義概要・学習目標】
＜アメリカン・グローバリズムとアメリカ経済＞
現在のGlobalizationは、Global Americanizationという様相が強い。これには、アメリカがIMFや世界銀行、国連、WTOなどの国際機関の場において、またNAFTA（北米自由貿などの地域協定において、アメリカ流のグローバル主義を主導的に展開してきたからである。また、1990年代には世界の資金がアメリカに集中し、アメリカはかつてない超長期の景気拡大を達成し、アメリカの経済・経営モデルがスタンダード・モデルとされたからであった。
本講義では、まず、アメリカの主張するグローバリズム、すなわちアメリカン・グローバリズムを、その基本的な考え方、政策展開、その主要な推進者である多国籍企業・銀行の動向、IMF・WTO体制、地域主義、の各視点から検討する。次に、アメリカン・グローバリズムの下でのアメリカ経済をいくつかの領域に分けて検討する。本講義では日米比較を重視するが、これによってアメリカ経済だけではなく、日本経済への理解も深くなるものと考えている。

【講義計画】
＜アメリカン・グローバリズム＞
1　グローバリゼーションとグローバリズム
2　アメリカン・グローバリズム
3　アメリカ多国籍企業のグローバル展開（1）
4　アメリカ多国籍企業のグローバル展開（2）
5　多国籍企業の政治問題化と対外経済政策の転換
6　アメリカ多国籍企業の新動向
7　貿易・投資の世界的自由化とWTO体制
8　サービス貿易自由化とWTO体制
9　アメリカン・グローバリズムと国際金融体制
10　アメリカン・リージョナリズム（地域主義）の台頭
11　北米戦略とNAFTA（北米自由貿易協定）
12　「貿易と環境」とNAFTA論争
13　中南米戦略とFTAA（米主自由貿易地域）構想の失速
14　アジア太平洋戦略とAPEC（アジア太平洋協力会議）
15　アメリカン・グローバリズムとアンチ・グローバリズム

＜アメリカン・グローバリズムの国内的文脈＞
1　グローバリズムの国内的文脈とは?
2　アメリカの産業構造の変化
3　サービス経済化
4　ヤング・レポートとパルミサーノ・レポート
5　アメリカン・コーポレート・ガバナンス（企業統治）の構造
6　アメリカン・コーポレート・ガバナンスの転機
7　アメリカの金融：制度と革新
8　銀行の収益性革命
9　財政思想の変遷と財政政策（1）
10　財政思想の変遷と財政政策（2）
11　アメリカ型福祉国家の成立・展開と転換
12　アメリカの労働市場の構造
13　グローバル競争下の労働市場と労働政策
14　アメリカの独占禁止政策
15　アメリカの知的財産権戦略

【成績評価の方法】
時に応じて書いてもらうコメントを平常点としたうえで、年度末の筆記試験の成績とを総合して評価する。

【教科書】
萩原伸次郎・中本　悟編『現代アメリカ経済』日本評論社、2005年

【参考文献】
授業中に紹介します。

科目名			
アメリカ文学史			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期集中	4単位	佐々木　英　哲

【講義概要・学習目標】
作家及びその文学作品を取り巻く社会的・文化的状況、時代精神までを射程範囲に収めたうえで、アメリカ文学を通史的に概観することが本講義の目的である。アメリカ文学を俯瞰するという作業は多くの受講生にとって初めてのはずだ。その意味から授業は必然的に導入的意味合いが強くなる。しかしながら担当者としては、単に一方的講義による作家・作品解説に終始する授業にはしたくないと思っている。アメリカ文学史を支える屋台骨と「見なされてきた」主要作家の手による代表的な作品――近年、文学史に於けるその評価の正当性が根幹から問われているという事実は、受講生が導入レベルにある事実を踏まえ、この際、さほど重要視しないことにする――を読み返しつつ、それらの文学的主題を再検証する作業を行う。その他の作家・作品については、担当者による解説で補うものとする。

【講義計画】
目安として、前半では植民地時代から南北戦争までの文学を、後半では南北戦争後から第２次大戦を経た今日に至るまでの文学を扱う予定でいる。主に次の人物・作品を取り上げる予定。

Jonathan Edwards
Thomas Jefferson
James Fenimore Cooper (The Pioneers)
Ralph Waldo Emerson ("Self-Reliance")
Henry David Thoreau (Walden)
Emily Dickinson
Nathaniel Hawthorne (The Scarlet Letter)
Herman Melville (Pierre)
Walt Whitman (Leaves of Grass)
Harriett Beecher Stowe (Uncle Tom's Cabin)

Mark Twain (The Adventures of Huckleberry Finn)
Stephen Crane (Maggie: A Girl of the Streets)
Henry James (The Wings of the Dove)
Edith Wharton (The House of Mirth)
Scott Fitzgerald (The Great Gatsby)
Ernest Hemingway (The Old Man and the Sea)
William Faulkner (Absalom, Absalom!)
Ralph Waldo Ellison (The Invisible Man)
Thomas Pynchon (The Crying of Lot 49)

【成績評価の方法】
予習・復習にかかわる範囲で毎回始業時に小テストを行い、それをもって出席確認に代える。念のため申し添えておくが、出席回数そのものよりも、授業貢献度を重視する。毎回、小テストをするので学期末にはテストは行わず、レポートを提出してもらうつもりでいる。

【教科書】
プリントを配布。

【参考文献】
授業時に指示する。

科　目　名			
アメリカ文化研究－暴力と金と結社と差別			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	藤　森　かよ子

【講義概要・学習目標】
この講義では、アメリカ合衆国を理解するために、かつアメリカ文化を大雑把に把握するために、アメリカの文化現象を以下の4つの様相から考察します。考察材料として、ハリウッド映画を利用します。

（1）アメリカの銃文化の歴史的法的背景---銃所持は自由市民の権利？
（2）清貧という美徳がない文化---まずは金持ちにならなきゃ駄目！
（3）個人主義のメッカのアメリカには、やたら結社が多い。この矛盾はなぜ？
（4）多文化主義こそアメリカ。でも多民族多人種多文化は疲れる・・・

はっきり言えば、映画だの文学作品だのは、現実逃避用文化産物でしかありません。しかし、わたしたちは、現実を現実のありのままに認識できません。現実逃避用文化産物のような媒介を通して、なんとか現実を把握できるのです。なにゆえか、脳がそういうことになっています。しかも、その現実逃避用文化産物は、一般ピープル向け洗脳道具になっています。鵜呑みにして信じる人間は愚劣なのです。騙されるほうが悪いのです。しかし、映画などのメディアは実に巧妙で強力で魅力的です。その洗脳の巧みさから、私たちは学ぶべきことが多くあります。日本にとってアメリカは対処するのに骨が折れる帝国です。帝国のやり口を、じっくり学びましょう。反米意識だけでは、対処できません。

映画を含むメディアは、どんなものでも、どの国のものでも、信用できません。メディアは政治的でありイデオロギカルなものです。このクラスでは、アメリカ文化の様相とともに、映画を疑いながら分析すること（media literacy）も学びます。

＜注意＞映画に関するクラスだから、ぼんやり口を開けて映画を観ていればいいのだろう、お気楽なクラスだろうと期待する方は、受講しないで下さい。迷惑です。邪魔です。自分に明らかに非があることに関して「叱られて傷つけられるのがいや」な幼稚な方は受講しないで下さい。

【講義計画】
以下の計画は、事情により多少の変更もあり得ます。

第１回：ハリウッド映画産業の歴史とメディアの政治性
第２回--第７回：銃文化・暴力文化のアメリカ
第８回--第15回：清貧という美徳がないアメリカ
第16回--第21回：結社ばかりのアメリカ
第22回--第27回：多文化主義に挑戦し、かつ疲れているアメリカ
第28回:まとめ

【成績評価の方法】
出席と毎回提出するコメントペーパーと学期末試験から、総合的に評価します。

【教科書】
なし。毎回、藤森作成のハンドアウトを配布します。

【参考文献】
以下の文献を読めば、一層に講義内容が理解できるし楽しめるでしょう。
(1)オットー・フリードリック著・柴田京子訳『ハリウッド帝国の興亡---夢工場の１９４０年代』（文藝春秋、１９９４）
(2)ロバート・スクラー著・鈴木主税『アメリカ映画の文化史』上下巻（講談社、１９９５）
(3)鈴木透著『現代アメリカを観る---映画が描く超大国の鼓動』（丸善ライブラリ、１９９８）
(4)八尋春海著『映画で学ぶアメリカ文化』(スクリーン・プレイ、１９９９)
(5)北野圭介著『ハリウッド１００年史講義---夢の工場から夢の王国へ』（平凡社、２００１）
(6)大場正明＋編集部『Cine Lesson15　アメリカ映画主義---もうひとつのUSA』（フィルムアート社、２００２）
(7)岸本裕子著『スクリーンに投影されるアメリカ』（メタ・ブレーン２００３）
(8)村山一郎編『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』（フィルムアート社、２００３）
(9)カーラ・フレチャロウ著・ポップ・カルチャー研究会訳『映画でわかるカルチャー・スタディーズ』（フィルムアート社、２００３）
(10)副島隆彦著『ハリウッド映画で読む世界覇権国アメリカ』上下巻（講談社+α文庫、２００４）

科目名			
医学一般			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期集中	4単位	郭　麗月

【講義概要・学習目標】
1 人体の基本的な構造や機能について理解させる。
2 臨床医学ノ各分野ノ概要について理解させる。
3 医学的リハビリテーションノ概要について理解させる。
4 現代社会の代表的な疾患について理解させる。
5 公衆衛生の概要を理解させる。
6 保健医療対策の概要を理解させる。
7 医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。
8 社会福祉士に必要な内容について理解させる。

【講義計画】
1 人体の構造・機能
2 一般臨床医学（内科、外科、整形外科、神経・精神科等）の概要
3 医学的リハビリテーションの概要
4 現代社会と疾患
　1）がん、生活習慣病
　2）各種感染症
　3）神経・精神疾患
　4）先天性疾患
　5）難病
　6）その他
5 公衆衛生の現状
　1）人口動態
　2）疾病と受療状況
　3）医療関係者
　4）医療施設
6 保健医療対策の現状
7 医事法事と保健・医療機関及び専門職
　1）医療法、医師法、保健婦助産婦看護婦法等、医事法制の概要
　2）保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連帯のあり方

【成績評価の方法】
レポート、定期試験の成績で評価する。

【教科書】
（福祉士養成講座編集委員会編）
『社会福祉士養成講座13「医学一般」』（中央法規）

【参考文献】
適時紹介する。

科目名			
イギリス文学史			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	日下隆平

【講義概要・学習目標】
この講義は、アイルランドを含めてイギリスで書かれた文学作品について学ぶことを目的にしています。各時代で書かれた詩、小説、演劇そして随筆などを可能な限り実際に原文で読むことで、当時のイギリスの時代精神、文化、さらには社会背景などをより一層ふかく学び当時の人々の暮らしぶりや考え方を知ることができるはずです。とはいえ、一国の長い歴史を30回程度の授業でまとめることは至難の業です。したがって、各時代で特定の作家に的を絞って作品を講読してゆくつもりです。取り上げる時代と作家は以下の通りです。

【講義計画】
授業前半ではパワーポイントを用いて背景説明をし、後半ではハンドアウトを読みながら説明してゆく。
17世紀前半　William Shakespeareの『マクベス』
18世紀前半　Jonathan Swift,『ガリバー旅行記』
プロテスタント教徒と小説：デフォー、ロビンソン・クルーソ
18世紀後半　ピラネージとローマの廃墟、ゴシック建築
廃墟趣味とゴシック小説、
19世紀前半　ロマン主義の思想と文学　S.T.Coleridge『老水夫の歌』、『クリスタベル』
19世紀後半　ヴィクトリア朝時代一女性像。
都市と文学：ロンドンの拡大、クリスタルパレス。
脱植民地の文学:アイルランドとケルト復興
20世紀：Thomas Sterns Eliot,『荒れ地』
などを読む予定です。また作品全体を知るために『マクベス』などではビデオなどを活用する予定。

【成績評価の方法】
授業参加と試験による。
毎回ハンドアウトを配布します。一週間前に渡すように努めますので、事前に読んできてください。

【教科書】
川崎寿彦著『イギリス文学史』、成美堂。
また、ハンドアウトを配布します。（欠席による再配布はしませんの注意してください。）

【参考文献】
毎回授業の資料としてハンドアウトを配布します。（欠席による再配布はしませんので注意してください。）

科　目　名			
イタリア語Ｉａ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	通期	2単位	畷　絵　里

【講義概要・学習目標】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

【講義計画】
【春学期】

１．発音とあいさつ

２．名詞と形容詞の基本的な規則

３．自分や家族のことについて話したり尋ねたりしよう

４．時刻や曜日の言い方

５．規則変化動詞でいろいろなことを言ってみよう

【秋学期】

１．不規則動詞で表現の幅を増やそう

２．要求を述べたり頼んだりする表現（補助動詞）

３．過去の表現（１）：近過去

４．再帰動詞を使いながら一日の行動を説明しよう

５．過去の表現（２）：半過去

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、年に４回（イタリア語Ｉb-01と合わせて）の筆記試験と適宜の小テストを授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科　目　名			
イタリア語Ｉａ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
02	通期	2単位	和　栗　珠　里

【講義概要・学習目標】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力･聞く力と並行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。
なお、この授業はイタリア語Ib-02と同じテキストを用い、一貫して進められる。

【講義計画】
【春学期】
１．発音とあいさつ
２．名詞と形容詞の基本的な規則
３．自分や家族のことについて話したり尋ねたりしよう
４．時刻や曜日の言い方
５．規則変化動詞でいろいろなことを言ってみよう

【秋学期】
１．不規則動詞で表現の幅を増やそう
２．要求を述べたり頼んだりする表現（補助動詞）
３．過去の表現（１）:近過去
４．再帰動詞を使いながら一日の行動を説明しよう
５．過去の表現（２）:半過去

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、年に４回（イタリア語Ib-02と合わせて）の筆記試験と適宜の小テストを授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎･池田廉『ポケット　プログレッシブ伊和･和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名			
イタリア語Ｉａ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
03	通期	2単位	畷　絵里

【講義概要・学習目標】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。
　なお、この授業はイタリア語Ｉb-03と同じテキストを用い、Ｉb-03の講師と連携して一貫した授業を行う。

【講義計画】
【春学期】

１．発音とあいさつ

２．名詞と形容詞の基本的な規則

３．自分や家族のことについて話したり尋ねたりしよう

４．時刻や曜日の言い方

５．規則変化動詞でいろいろなことを言ってみよう

【秋学期】

１．不規則動詞で表現の幅を増やそう

２．要求を述べたり頼んだりする表現（補助動詞）

３．過去の表現（１）：近過去

４．再帰動詞を使いながら一日の行動を説明しよう

５．過去の表現（２）：半過去

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、年に４回（イタリア語Ｉb-03と合わせて）の筆記試験と適宜の小テストを授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
　教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名			
イタリア語Ｉｂ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	通期	2単位	畷　絵里

【講義概要・学習目標】
イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。基本的語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力・聞く力と平行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

【講義計画】
【春学期】

１．発音とあいさつ

２．名詞と形容詞の基本的な規則

３．自分や家族のことについて話したり尋ねたりしよう

４．時刻や曜日の言い方

５．規則変化動詞でいろいろなことを言ってみよう

【秋学期】

１．不規則動詞で表現の幅を増やそう

２．要求を述べたり頼んだりする表現（補助動詞）

３．過去の表現（１）：近過去

４．再帰動詞を使いながら一日の行動を説明しよう

５．過去の表現（２）：半過去

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、年に４回（イタリア語Ｉa-01と合わせて）の筆記試験と適宜の小テストを授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）
　教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科　目　名			
イタリア語Ｉｂ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
02	通期	2単位	和　栗　珠　里

【講義概要・学習目標】

イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力･聞く力と並行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

なお、この授業はイタリア語Ia-02と同じテキストを用い、一貫して進められる。

【講義計画】

【春学期】

1．発音とあいさつ
2．名詞と形容詞の基本的な規則
3．自分や家族のことについて話したり尋ねたりしよう
4．時刻や曜日の言い方
5．規則変化動詞でいろいろなことを言ってみよう

【秋学期】

1．不規則動詞で表現の幅を増やそう
2．要求を述べたり頼んだりする表現（補助動詞）
3．過去の表現（1）：近過去
4．再帰動詞を使いながら一日の行動を説明しよう
5．過去の表現（2）：半過去

【成績評価の方法】

平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、年に４回（イタリア語Ia-02と合わせて）の筆記試験と適宜の小テストを授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）

教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎･池田廉『ポケット　プログレッシブ伊和･和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】

白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科　目　名			
イタリア語Ｉｂ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
03	通期	2単位	和　栗　珠　里

【講義概要・学習目標】

イタリア語は音楽的な言語だと言われるが、発音はさほど難しくなく、我々になじみやすい言語である。言葉の面白さは人間相手に使って初めて実感できる。よって、授業では実践的な表現が身につくように演習形式をとる。基本語彙と初級文法の習得を目標とするが、文法が話す力･聞く力と並行して向上するように、徹底した反復練習を行なう。言語の習得は模倣と反復が基本であるから、積極的に授業に参加して、耳と目と口をフルに使ってほしい。

なお、この授業はイタリア語Ia-03と同じテキストを用い、Ia-03の講師と連携して一貫した授業を行う。

【講義計画】

【春学期】

1．発音とあいさつ
2．名詞と形容詞の基本的な規則
3．自分や家族のことについて話したり尋ねたりしよう
4．時刻や曜日の言い方
5．規則変化動詞でいろいろなことを言ってみよう

【秋学期】

1．不規則動詞で表現の幅を増やそう
2．要求を述べたり頼んだりする表現（補助動詞）
3．過去の表現（1）：近過去
4．再帰動詞を使いながら一日の行動を説明しよう
5．過去の表現（2）：半過去

【成績評価の方法】

平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、年に４回（イタリア語Ia-03と合わせて）の筆記試験と適宜の小テストを授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】

講師作成のテキスト『Italiano piu' attivo』（初回授業時に配布し、印刷製本代を徴収する）

教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎･池田廉『ポケット　プログレッシブ伊和･和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】

白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名			
イタリア語Ⅱa			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	通期	2単位	和栗珠里

【講義概要・学習目標】
イタリア語1で学習した基礎を発展させ、新しい文法事項や語彙・表現を学びながら、イタリア語の能力を高めることを目標とする。文法力がコミュニケーション力と結びついて伸びるよう、授業では徹底的な反復と実践的な会話練習を重視する。したがって、受講生には、積極的な授業参加が求められる。また、語彙力を高めるために、毎回小テストを実施する。

【講義計画】
【春学期】
1．イタリア語Iの復習
（1）規則変化動詞の現在形と名詞・形容詞・冠詞
（2）不規則変化動詞の現在形と代名詞
（3）過去表現（近過去・半過去）
2．命令法
（1）道を尋ねる
（2）ていねいに頼む
（3）家族や友人に頼んだり指示したりする
【秋学期】
1．未来形
（1）天気予報
（2）休日の予定
（3）将来の夢
2．条件法
（1）願望や仮定の表現
（2）ていねいな表現
3．総合的なオーラル・コミュニケーション

【成績評価の方法】
毎回の小テストの得点、出席度、授業における積極性・理解度を中心とする平常点を重視する。また、各期2回ずつの筆記試験と適宜のオーラルテストを授業中に行なう。作文などの提出物を求める場合もある。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
小テスト用として、『イラストいっぱい　イタリア単語集』（バルバラ・ピザーニ/マルコ・ビオンディ著、白水社）を用いる。
文法用の教材は、プリントを使用する。
教科書の他に辞書を必ず授業に持ってくること。郡史郎・池田廉『ポケット　プログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

【参考文献】
白崎容子『イタリア語速習15日』（創拓社）

科目名			
イタリア語Ⅱa			
クラス	講義区分	単位数	担当者
02	通期	2単位	畷絵里

【講義概要・学習目標】
イタリア語Ⅰで学んだことを基礎に文法力の一層の充実を図り、表現力と理解力を高めることがⅡでの課題である。実践的な演習形式を多くとり入れて聞く力・話す力の向上を目指すのはイタリア語Ⅰと同じだが、さらに、学生同士で意見交換をしながら文書を読んだり書いたり話したりすることにより、高度で総合的なイタリア語の力を養っていく。また、イタリア人学生との交流によって実践的なイタリア語会話を身につけてもらう。

【講義計画】
＜春学期＞　イタリア語の構造のまとめ
1．イタリア語Ⅰの復習と実践練習
2．様々な過去時制

＜秋学期＞　表現力と実践的運用力の充実
1．春学期の応用
2．演習

【成績評価の方法】
平常点（授業における積極性、反応度、理解度）を基本とする。また、年に数回の筆記試験と口頭試問を授業中に行い、適宜課題の提出も求める。これらの材料から受講生各個の能力を総合的に判断して評価を決定する。

【教科書】
主にﾌﾟﾘﾝﾄを活用するが、補足の問題集として、岡田由美子著『Facciamo esercizi!（練習しましょう）』(白水社）を使用する。

問題集の他に辞書を必ず授業に持ってくること。
郡史郎・池田廉『ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典』（小学館）を勧めるが、他の辞書でもよい。

科目名			
イタリア語Ⅱa			
クラス	講義区分	単位数	担当者
03	通期	2単位	面地　敦

【講義概要・学習目標】
一年生の時に学んだことをより確かなものにした上で、イタリア語文法を更に学んでいくのがこの授業の目的である。

【講義計画】
前半は教科書の11課までを終えたいと思う。この11課のうちの大部分は一年生の時に学んだことなので、怖れる必要はない。後半で21課まで進みたいとは思うが、その時の生徒の理解度を見ながら、柔軟に考えたい。
小テストや宿題を課すこともあるかも知れないが、めげずに頑張ってほしい。

【成績評価の方法】
２回の試験の平均で評価する。平均40点以上をとれば合格。ボーダーライン上の点数は、出席点を加味する。

【教科書】
S.Kobayashi:Nueve Ventun Lezioni d'Italiano
（小林惺著）　（新版　イタリア語21課）　白水社
プリント・コピーを配布することがある。

科目名			
イタリア語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	通期	2単位	鳥居正雄

【講義概要・学習目標】
Ⅱを履修する殆どの諸君が、Ⅰの内容がまったく身についていないので動詞の変化を中心に品詞別の練習問題を使った演習を、プリントを使ってみっちりとやります。会話も基本的には作文なので、文章が一通り作れるようになることを目標にします。語学はすべて継続にすることが大事なので毎時間必ず出席することと、毎回の予習、復習が最低条件です。学生は授業に出席するのが当然なので、出席することと単位とは直接には結びつきません。
この授業では、演習をやって初めて単位がどうこうという話になります。当大学では、授業開始時間に出席している学生は３割程度なので、それ以外の欠席や遅刻が目に余るような諸君には単位は出ないと考えてください。ａクラスだけ出席してｂクラスは出席しないとか、再履修だからという理由で出席しない怠け者の諸君や、授業中に携帯で遊んだり寝たりするような集中力の無い学生や、常習的に遅刻する学生には単位は出ません。
特に、授業中に寝る学生は、熱心に授業に参加している他の学生や、授業をしている私の意欲を殺ぐという点からも、絶対に単位はもらえないと考えてください。

【講義計画】
『前期』
単元毎の文法説明を行います。必要に応じてプリントを使います。
各課ごとに練習問題をして理解を完全なものにします。
動詞の変化を徹底的に反復して覚えてもらいます。練習問題の文章を通してイタリア的な感性に対する理解を養います。

『後期』
日常的な表現が身につくようプリントを使った演習を徹底的にやります。
ヒヤリングの機会を増やして発音とアクセントの正確さを高めます。それらを通してイタリア的な物の考え方に対する理解を深めてもらいます。順調に進んで時間に余裕のできたクラスはDVDを見るかも知れません。

【成績評価の方法】
殆ど毎回行う小テストの点数と、期末テスト、それに授業中の問題に対する答えの出来具合を総合して評価しますが、特に授業中の練習問題をやった回数と答えの出来具合に重点をおいて評価します。

【教科書】
プリントを使います。演習をするので、辞書は本棚に飾って置かないで、毎時間必ず持って来ること。

【参考文献】
どのような分野でも良いので、イタリアに関する自分の関心のある分野の本を図書館や書店で出来るだけたくさん読むこと。

科目名			
イタリア語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担当者
02 03	通期	2単位	米山喜晟

【講義概要・学習目標】
一年生で学んだイタリア語の知識を土台にして、イタリア語の文法を最後まで仕上げることがこの授業の目的である。やはりせっかく大学で学んでいるのだから、イタリア語文法の全体像が見えるところまで、また一応イタリア語が使えるところまで、授業を進めたい。

【講義計画】
前半で教科書の11課までを終える。そこまでは一年生で学んだことの復習が大半の時間を占めるであろう。後半で、それ以後の部分、最後の21課まで進み、イタリア語文法を完了する。とにかく毎週の範囲の復習、予習を怠らないこと。一日最低一時間以上はイタリア語を声を張り上げて読み、例文と動詞の変化を暗記すること。全文を暗記すればイタリアで生活するのに困らない。一応イタリア語ができるはずだ。

【成績評価の方法】
２回の試験の成績の平均によって評価する。平均40点以上を取れば合格。60点以上はA。ボーダーライン上の点数は、出席点を加味する。

【教科書】
S.Kobayashi:Nuove Ventun Lezioni d' Italiano

【参考文献】
坂本鉄男著『イタリア語の入門』(白水社) その他一応きちんと叙述されているものなら何でも良いから、まともなイタリア語の文法書を一部常に手元において、授業を理解するための参考にすると同時に授業の進行に併せて読み進み、期末までに読み終えることが望ましい。そうすれば、さらにはっきりとしたイタリア語文法の全体像が把握できて、諸君の頭脳の中で、一生の財産となって残るであろう。

科目名			
一般経済史			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	通期	4単位	富澤修身

【講義概要・学習目標】
長い混迷状態にある日本経済、通貨経済危機を経ても勢いを感じさせるアジア経済、情報技術革命を手がかりに成長を続けるアメリカ経済、そしてさまざまな実験を行い社会的リーダーシップを示す西欧諸国という具合に、現代経済はさまざまな国・地域から構成されている。世界と日本の21世紀を考えるとき、来し方を振り返ることが必要となる。歴史は、現代と未来のあり方を構想する際の手がかりを与えてくれるからである。講義では、イギリス、アメリカ、日本の歴史を素材にして、18世紀の経済史、19世紀の経済史、20世紀の経済史について論じる。

【講義計画】
１．はじめに
２．産業革命
　２．１.イギリス産業革命
　２．２.後発国・地域の工業化
３．18世紀の経済史
　３．１.問屋制経営
　３．２.協業
　３．３.マニュファクチュア
４．19世紀の経済史
　４．１.機械制大工業
　４．２.鉄道経営
５．20世紀の経済史
　５．１.大企業の登場
　５．２.1930年代ニューディール
　５．３.戦後経済史

【成績評価の方法】
定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。受講者が少ない場合は変更の可能性有り。

【教科書】
教科書は指定しない。プリントを配布する。

科　目　名			
一般経済史			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
02	春学期集中	4単位	前　田　治　郎

【講義概要・学習目標】
人類史において、人間はその自然変革能力を高めてきた。とりわけ資本主義の成立以後、この発展は加速度を増し、今日の高い生産力にまで到達してきた。しかし他方、依然として地球上には飢餓人口が存在し、環境問題は猶予ならないほどに深刻化し、また人殺しのための兵器が科学技術の最先端を代表しているといった現実も忘れるべきではない。この講義の前半では、資本主義を相対化するために、資本主義も含む通史的な経済史の発展傾向を考え、後半では、資本主義そのものの発展を理解するのに必要な基礎的諸概念を取り上げることにする。それらを通じて考えたいことは、「資本主義とは何か？」ということである。

【講義計画】
1．前半には､経済史の発展を以下の３つの側面から取り上げる。すなわち、(a) 生産力の発展とは何か、(b) 経済システムの展開、(c) 国家とグローバリゼーション。
2．後半には、資本主義の発展を理解するための基礎的諸概念を取り上げる。具体的には、産業革命、先進国と後進国、資本主義の世界体制、独占資本主義、国際通貨体制、社会主義、福祉国家、グローバリゼーションなどである。

【成績評価の方法】
春学期末試験と授業中に行う小テスト。小テストは、理解度を測る意味でも、頻繁に行う。

科　目　名			
異文化間コミュニケーション論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	遠　山　　淳

【講義概要・学習目標】
講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、宗教とコミュニケーション、歴史とコミュニケーションなどについて講義し、文明と文化、普遍文化と個別文化との関係、異文化理解、文化変容、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。また英語・日本語教員志望者に配慮し、英米人のコミュニケーション特性についても講義する。
　情報は文化を生成し、文化は人間に対して常に規範的に係わる。異文化理解も自文化からの自文化的な「理解」である。さて諸君はどこまで自文化を越えられるだろうか。

【講義計画】
1．異文化コミュニケーション論とは
2．「文化」とは：静態と動態、定義、情報代謝理論
3．自文化中心主義と文化相対主義
4．コミュニケーションの志向性と型、動因と文化型
5．言語と文化：エティックとイーミック
6．非言語コミュニケーション
7．コミュニケーション能力と言語能力
8．コミュニケーションの文化型：片立型文化と両立型文化
9－10．コミュニケーションの比較：日本とアメリカ
11．「理解」法の文化比較：「わかる」こと、言行の一致と乖離
12．定量的方法と定性的方法、特徴と限界

【成績評価の方法】
期末に試験／レポートを課し、出席と合わせて総合的に評価する。

【教科書】
遠山共編著『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣、1998

【参考文献】
遠山他著・石井橋本編『日本人のコミュニケーション』桐原書店、1993吉田暁編・石井・久米他編『異文化コミュニケーション』有斐閣、1987祖父江孝男『文化人類学入門　増補改訂版』中公新書、1992遠山他編著『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣、2001
他は授業中に紹介する。

科目名			
意味論・語用論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	林　宅男

【講義概要・学習目標】
注意：この授業は、留学生を含んで英語で授業を受けたい学生を対象に、日本語を交えて英語で行われる。
This class will be taught both in Japanese and English and for students who want to take a course in English, including those from abroad.

1．講義概要（Course outline）

この授業ではことばの持つ意味の諸相について学ぶ。前半は語や文の概念について研究する「意味論」を、後半は特定の場面や文脈での意図的意味を研究する「語用論」を扱う。意味論では、近年の認知科学の発展と平行して最近注目を浴びている「認知意味論」に基づき、言語が脳の精神作用一般の働きとどのように密接に関係し、その意味が主観的な自己の経験や知識とどのように繋がっているかを学ぶ。
語用論では、我々がことばを使ってコミュニケーションをする場合にどのように意図（意味）を表現するのか、その表現の解釈の原理やメカニズムはどのようなものであるか、更に、ことばの意味は社会的場面やイデオロギーとどのように関わっているのか、などについて学ぶ。

This course concerns various aspects of linguistic meaning, which will be lectured in two parts. The first part is "semantics" or the study of conceptual meaning of words and sentences, where we will cover several topics in "cognitive semantics", to show how linguistic meanings and behaviors are related to the general psychological constructs and models.
The second part is "pragmatics" or the study of meaning in contexts, where we will study the mechanism and principle of communicative meaning by looking into how we convey and understand intention through language.

【講義計画】
（1）認知意味論の意味観
（2）範疇とプロトタイプ
（3）イメージスキーマ
（4）意味の拡張
（5）認知的文法・構文研究
（6）プラグマティックスの意味観
（7）言語形式の談話レベルでの分析
（8）発話における意図と解釈
（9）言語使用の認知的研究
(10) 社会的プラグマティックス

（1）Approach of Cognitive Semantics
（2）Categorization & Prototype
（3）Image Schema
（4）Extension of Meaning
（5）Construction Grammar
（6）Approach of Pragmatics
（7）Discourse Grammar
（8）Intention and Interpretation
（9）Cognitive Aspects of Pragmatics
(10) Social Aspects of Pragmatics

【成績評価の方法】
出席、クイズ、課題、及び試験
Attendance, Quiz, Assignment & Examination

【教科書】
（授業開始時に以下の２冊を同時に入手すること）
1）松本曜（編）「認知意味論」シリーズ認知言語学入門　第３巻 大修館書店
（Yo Matumoto (Ed.) "Ninchi imiron" (Cognitive Semantics), Taishukan Co.)
2）高原脩・林宅男・林礼子（著）「プラグマテイックスの展開」勁草書房
Osamu Takahara, Takuo Hayashi & Reiko Hayashi "Puragumatikkusu no tenkai" (Approaches to Pragmatics) Keisou shobo Co.)
3）プリント教材
In addition to Japanese text books, supplementary English handouts will also be used.
(Students who do not have enough proficiency in Japanese, may need additional reference books in English, which will be introduced in the class.)

【参考文献】
授業で指示
To be announced in the class.

【備考】
研究室と連絡先
Office Room 801, St. Andrew's Building
For Questions etc. contact:thayashi@andrew.ac.jp
英語による授業です。

科　目　名			
医療保健福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	8月･12月集中	4単位	小　西　加保留

【講義概要・学習目標】
夏の集中講義では、医療保健福祉を学ぶための背景となる知識として、医療の変遷、保健医療を取り巻く制度・施策などの現状を理解する。次いで、医療ソーシャルワーク実践の理念や意義、欧米および日本における歴史的変遷、業務の概要について学ぶ。また医療ソーシャルワーク実践の倫理と価値に関わる課題を患者の権利に繋げて理解する。後半は、具体的な対象となる難病、救急医療、小児、ターミナル、HIV感染症などの領域別の生活課題とソーシャルワーク実践の内容を学ぶ。また近年の医療政策の流れの中で求められる、退院援助業務の展開、チーム医療や組織に関わる課題、電子カルテやクリニカル・パスへの対応などについても理解する。
1．保健医療領域におけるソーシャルワークの理念と意義を理解する。
2．医療の変遷と福祉の理論的枠組みを理解する。
3．保健医療の展開とソーシャルワークの歴史を学ぶ。
4．保健医療ソーシャルワークにおける倫理と価値の問題を理解する。
5．医療と患者の人権について理解する。
6．保健医療ソーシャルワークの対象と相談援助活動の実際を知る。
7．保健・医療・福祉の連携とチーム医療について学ぶ。
8．保健医療における今日的課題を知る。
9．医療保障制度の概略を理解する。

【講義計画】
夏：集中講義
1日目　医療保健福祉の理念と意義
　　医療の変遷と医療環境
2日目　医療ソーシャルワークの歴史（イギリス/アメリカ/日本）
3日目　医療ソーシャルワーク業務指針
　　患者の人権と社会福祉Ⅰ　ハンセン病
4日目　患者の人権と社会福祉Ⅱ　HIV感染症
　　医療における倫理とソーシャルワーク
　　医療ソーシャルワーク実践－退院援助
　　医療ソーシャルワーク実践－難病
5日目　医療ソーシャルワーク実践－障害受容
　　医療ソーシャルワーク実践－救急医療
　　医療ソーシャルワーク実践－ターミナルケア
　　医療ソーシャルワーク実践－小児医療
冬：集中講義
1日目　医療ソーシャルワーク実践－ホームレス小児医療
　　医療ソーシャルワーク実践－HIV感染者
　　組織とソーシャルワーク
　　チーム医療と連携の課題
2日目　医療施策の変遷と今日的課題
　　医療保障制度の概要
　　まとめ

【成績評価の方法】
出席（30%）とレポート（70%）によって評価する

【教科書】
適宜資料を配布する

【参考文献】

・日本社会福祉士会･日本医療社会事業協会編『保健医療ソーシャルワーク実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ』中央法規、2004
・日本医療社会事業協会編『保健医療ソーシャルワーク原論改訂版』相川書房、2004
・杉本照子監修『医療におけるソーシャルワークの展開』相川書房、2001
・日本医療ソーシャルワーク研究会『実践的医療ソーシャルワーク論』金原出版、2004
・日本療養病床協会ソーシャルワーク部会『だから面白いソーシャルワーカーの仕事』厚生科学研究所、2004

科　目　名			
インドネシア語Ⅰa			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	2単位	深　見　純　生

【講義概要・学習目標】
この授業は、基礎的なインドネシア語の習得を目的としている。
毎回の授業では、可能な限りインドネシア語を聞き、話すことによって、インドネシア語の発音と表現に受講者の耳と口を慣らすようにしたい。
文法にはあまり細かくこだわることなく、日常の様々な場面でコミュニケーションするために必要な、もっとも基本的な言葉と表現を学んでいきたい。
授業の合間には映像によってインドネシアの風土や文化を紹介し、また映画をとおして言葉と人々を身近に感じられるようにしたい。

【講義計画】
あいさつ、自己紹介から始めて、買い物や食事などで使う表現まで学んでいく。
インドネシア語の場合、文法の基礎は難しくない。しかし、どの語学でも同じだが、基礎的な語彙を定着させる必要があり、そのためには「繰り返し学習」とくに予習と復習が必要である。

【成績評価の方法】
出席と授業中の学習態度、学習課題への取り組み（予習・復習）、および各学期末におこなう試験の成績を総合して評価する。

【教科書】
武部洋子『旅のゆびさし会話帳②インドネシア語』情報センター出版局
辞書も必要だが、授業中に指示する。

科目名			
インドネシア語Ⅰb			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	通期	2単位	ティティス ニティスワリ Titis Nitiswari

【講義概要・学習目標】
この授業は基礎的なインドネシア語の習得を目的にしている。授業内容は、発音、語彙、文法、そして簡単な会話や作文を含んでいる。具体的には、プリントを使用し、ゆっくり丁寧な学習を行いたい。インドネシア語は、比較的学習しやすい言語である。そのため、授業は複雑ではなく、大量の予習復習も必要ではない。ただ、授業進行が円滑になるように、できるだけ継続して出席して常に授業内容を把握していることが望まれている。

【講義計画】
プリントを一年かけてゆっくり丁寧に学習したい。
前期は、主に発音、語彙、簡単な文法や構文の習得を目指す。
後期は、より複雑な文法とその運用も学んでゆく。大量の予習復習は必要ないが、毎回の授業で練習に積極的に参加して頂きたい。

【成績評価の方法】
出席、授業参加の態度、各期末の書き取りなどの総合評価。なかでも、継続して出席して、積極的に授業中の練習に参加することを最も重視したい。

【教科書】
毎回プリント配布

科目名			
インドネシア語Ⅱa			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	通期	2単位	小池 誠

【講義概要・学習目標】
この授業では、１年次の学習を基礎にして、インドネシア語の力をさらに発展させたい。実用的なインドネシア語能力を高め、インドネシア語でコミュニケーションできるようにしたい。また、インドネシア語の文章を題材に用いて、辞書を使って読む力を養いたいと考えている。合わせて、自分を表現することを中心に、作文にも力を入れる。なお、授業の合間にインドネシア文化に関する映像資料を観ることで、インドネシアの文化をより身近に感じられるようにしたい。

【講義計画】
1　会話力の発展
2　辞書の引き方、とくに接辞の処理
3　文章の読解
4　インドネシア語の作文

【成績評価の方法】
出席と授業中の学習態度、小テストの結果、および各学期末に実施する試験（筆記と口答試験）の成績を総合的に評価する。

【教科書】
特定のテキストは使用しない。辞書については授業中に紹介する。

【参考文献】
授業の中で必要に応じて指示する。

科　目　名			
インドネシア語Ⅱb			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	2単位	ティティス　ニティスワリ Titis Nitiswari

【講義概要・学習目標】
二年目のインドネシア語の学習で、この授業では、主に実践的な運用能力の向上を目指したい。具体的には、プリントを使用しながら、そこで得られた知識が実際にはなせたり、聞き取れたりできるように練習したい。大量の予習復習を課すことはないが、二年目に入るために、単語や構文も記憶してゆくことは大切になってくる。それに役に立つような授業中での練習を試みたい。

【講義計画】
前期では、主に、一年目で学習した基本的な構文の復習と補強を行いたい。具体的には、名詞文、形容詞文、簡単な動詞文の復習である。この練習のなかでは、日常的に良く使われる単語を紹介して、実践的な知識を補強したい。
後期では、主に、より語法的、文法的な項目の練習を増やしてゆきたい。

【成績評価の方法】
出席、授業参加の態度、各期末聞き取りの総合評価、授業中に積極的に練習に参加することを最も重視したい。

【教科書】
毎回プリント配布

科　目　名			
英語Ⅴ（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01 02	通期	2単位	村　瀬　寿　代

【講義概要・学習目標】
TOEICテストのスコアアップを目指すとともに、英語力をあげるための講座である。今年は公開テストだけではなく、IPテストにおいても、新形式となり、従来以上にコミュニケーション能力が問われ、スピーキング、ライティングの導入も開始された。それだけに、講義に参加するだけではスコアアップは困難であり、自宅での学習は欠かせない。英語力をつけたい、TOEICスコアを上げたいと考えている学生は、１年間、本気で取り組むことを期待している。毎回の復習は必要であり、課題も多いが、やる気のある学生は是非挑戦してほしい。

【講義計画】
テキストを中心に授業をすすめる。前半はTOEICによく出題される文法や表現に焦点を当て、英語を聞いて即座に判断できる力を養う。後半は問題量をこなし、難解な問題にも対処できるようにすることで、スコアアップを目指す。語彙テストは毎回行う。

【成績評価の方法】
語彙テスト、公開テスト、IPテストのスコアで評価を行う。

【教科書】
LONGMAN PREPARATION SERIES FOR THE NEW TOEIC TEST (Advanced Course) 予定

【参考文献】
授業中に指示する。

【備考】
TOEIC対策講座
月曜日３限01クラスはTOEICスコア500点までを対象、木曜日４限02クラスはTOEICスコア500点以上を対象とするが、意欲がある学生スコアが不足していても、どちらのクラスも受講可。

科目名			
英語Ⅴ（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担当者
03	通期	2単位	Myles（マイルズ） Grogan（グローガン）

【講義概要・学習目標】
This class is for students who want to improve their speaking and listening, as well as their overall communication. Students will focus on responding to each other's opinions on a range of contemporary subjects. Whilst focussing on fluency and interacting we will continue to work on language structures. This will also include looking at different kinds of language for different situations, and how language and grammar can change in those situations.

【講義計画】
We will produce a series of conversations based on original texts, in addition to a text to look at specific features of language. Periodically, you will be required to work with a computer to produce a written or spoken text.

【成績評価の方法】
Assessment will primarily be based on:
?willingness to participate in the class
?attendance
?class assignments (NB ? these may require work outside of class time)

【教科書】
Innovations Pre-Intermediate - A Course in Natural English/Hugh Dellar, Andrew Walkley, Darryl Hocking) (Thomson)

【備考】
Conversation
Fluency
会話

科目名			
英語Ⅴ（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担当者
04	通期	2単位	Cameron（キャメロン） Romney（ロムニー）

【講義概要・学習目標】
This course is intended for students who have achieved a moderate level of English ability and wish to improve their English even further. The primary language focus of this class will be vocabulary, idioms and other lexical items. A secondary focus will be to develop and understanding of American Culture.

【講義計画】
The instructor will chose short video segments primarily from American television, but from movies as well, that introduce elements of American society, culture, and business. Students will explore these topics through discussion, debate and role-play. Students will be expected to attend and actively participate in every class.

【成績評価の方法】
Students will be primarily assessed on their participation in class. However, students will be expected to keep a vocabulary and reaction journal, listing new words encountered in the video segments and their reaction/opinion of the cultural elements discussed. These journals will be collect periodically throughout the semester. There will be an exam on the last day of class.

【教科書】
There will be no text for the class. Students will be given handouts as prepared by the instructor.

【参考文献】
Students are encouraged to have bilingual English/Japanese and a monolingual English dictionary.

【備考】
会話

科　目　名			
英語Ⅴ（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
05	通期	2単位	Terence J. O'brien（テレンス オブライエン）

【講義概要・学習目標】
An introduction to British and other cultures.

【講義計画】
In the spring semester we will compare the countries of Britain and Japan. We will look at buildings for example castles, churches, large mansions and houses. We will see how they were built and used.

In the Autumn semester we will look at people and their societies. We will discuss energy and power, the industrial revolution, transport, famous people, and youth culture.

【成績評価の方法】
Grades will be calculated from attendance, homework and tests.

【備考】
比較文化
英語による授業です

科　目　名			
英語Ⅴ（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
06	通期	2単位	David T. VanHam（デビット バン ハム）

【講義概要・学習目標】
Spring Semester 2006
Post-war Japanese Film and Culture: Japanese Films Since 1952
What is the connection between film and culture? While there are many limitations in considering film an accurate reflection of the society that produced it, there are at least some cultural insights to be gained from viewing popular films of a particular society. This class will try to discover what, if any, insights into Japan and Japanese society can be gathered from popular Japanese films. We will briefly examine Japanese film history along with a general discussion of what preconceptions we each bring in our understanding of Japanese life and culture. Then our class will begin viewing and discussing a variety of films from several periods of Japanese film history beginning with films made after the end of the American Occupation.
Fall Semester (2006)
Post-war Japanese Film and Culture: Recent Japanese Film
At this point we will have seen and considered several earlier films made up until the mid-1970s. In this semester we will continue our discovery of Japanese film and culture by examining films made in the last twenty years or so. In what way do contemporary Japanese film makers differ from those considered earlier? Is their vision more relevant to contemporary viewers? We will examine these and other issues are we see what the modern "masters" have achieved through their view of Japanese life and culture.

【講義計画】
SPRING 2006
A brief survey of Japanese film history
My Japan: How I see Japan now and where those ideas came from.
Japanese life: myth and reality.
Japanese films and discussion Spring Semester (a series of films to be viewed and discussed)
General discussion and student conchusions on Japanese film and culture
FALL 2006
The modern Japanese film
Japanese film and discussion Spring Semester (a series of films to be viewed and discussed)
New looks or old ideas: The influence of past works on present and future film visions.
General discussion and student conchusions on Japanese film and culture

【成績評価の方法】
Students will keep a journal recording their impressions, notes, and comments regarding the class and specific films viewed. This journal, along with reading assignments, in-class discussion and a final end of class paper (approximately 600 - 1200 words) will comprise the final grade.

【教科書】
Texts Various in-class materials as handouts

【参考文献】
References: A Hundred Years of Japanese Film: Donald Richie
The Midnight Eye Guide to New Japanese Film: Hideo Nakata

【備考】
Completing the Class:

Students will be expected to attend all classes and participate fully in discussions, workshops, etc..

日本事情入門
英語による授業です

科目名			
英語V（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担当者
07	通期	2単位	Warren（ウォーレン） Decker（デッカー）

【講義概要・学習目標】
JAPANESE SHORT STORIES

Overview:
In this course we will read and discuss English translations of various Japanese short stories from the start of the twentieth century to the present.

We will read authors such as Shiga Naoya, Tanizaki Junichiro, Ibuse Masuji, Endo Shusaku, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, and many others.

This class will be conducted entirely in English.

【講義計画】
Class Description:
After a brief biographical introduction to the authors, we will consider each story as a work of literature and look for its artistic value. We will then broaden our discussions to examine what the stories can tell us about Japanese culture. Finally, we will contemplate how these stories might relate to our personal experiences of contemporary Japan.

【成績評価の方法】
Grading and Expectations:
As a student in this course, your grade will be based on the following:

-reading at least one short story per week, (usually from ten to twenty pages)

-attending each class and actively participating in class discussions

-writing two short papers stating your interpretations and opinions of the short stories

【教科書】
Text:
"The Oxford Book of Japanese Short Stories" edited by Theodore W. Goossen

This book will be available at the bookstore at the start of the semester.

【備考】
日本事情
英語による授業です

科　目　名			
英語Ⅴ（上級）			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
08	通期	2単位	Cameron Romney（キャメロン ロムニー）

【講義概要・学習目標】
This course is intended for exchange students studying at Momoyama, but Japanese students with a high level of English are welcome. The class will explore current topics in Japanese society, culture (both traditional and popular), and business as reported in the English media. Students will explore these topics and relate them to their experiences as non-Japanese living in Japan.

【講義計画】
The instructor will chose topics and articles from the media and students will be expected to read and thoroughly understand them before coming to class. In class, the instructor will lead the discussion of the topic. Students will be expected to attend and actively participate in every class.

【成績評価の方法】
Students will be primarily assessed on their preparedness and participation in class. Furthermore, students will be expected to write a short (1000 word) "position" paper each semester and make a short presentation to the class supporting that position. There will be no exam.

【教科書】
There will be no text for the class. Students will be given handouts as prepared by the instructor.

【参考文献】
Non-Anglophone students are encouraged to have bilingual English/ (their) native language dictionary.

【備考】
日本事情
英語による授業です

科　目　名			
英語科教育法Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	4単位	島　田　勝　正

【講義概要・学習目標】
英語教師志望者を対象とする。英語科教育の基礎理論を概観するとともに、その理論の教育実践への適用を考察する。授業内容は第二言語習得論、英語教育目標論、指導課程論（シラバス論、授業計画）、指導方法論、指導技術論（４技能、文法、語彙）教材論、測定評価論、学習者論、教師論と多岐にわたる。
単に理論の紹介に終始せず明日の教育実践を射程に入れたワークショップを展開する。その中で受講者は学習の促進としての指導は如何にあるべきかを探求することになる。その体験は授業案作成、マイクロティーチングとして具現化される。
本講義の主たる目的は、中学校、高等学校、大学等で経験した英語教育や英語学習を基盤にして作り上げた「思い込み(belief)」から、解放し、望ましい英語授業のあり方を自己評価、自己点検ができる視点、観点を提供する事にある。

【講義計画】
＜前半＞
１．ガイダンス
２．教授・学習・評価（教授の役割）
３．第二言語習得論１（習慣形成理論と創造的構築）
４．第二言語習得論２（学習転移）
５．誤答分析
６．第二言語習得論３（インプット仮説）
７．TPR
８．文法指導１（気づき活動）
９．文法指導２（教材作成）
10．誤答訂正
11．目標論１（コミュニケーション能力）
12．目標論２（学習指導要領）
13．コミュニケーション方略
14．定期試験
＜後半＞
１．コミュニカティブアプローチ１（機能シラバス）
２．コミュニカティブアプローチ２（文機能分析）
３．コミュニカティブアプローチ３（教授法）
４．スピーキング（教材評価）
５．リスニング（背景知識の活性化）
６．リーディング（発問の種類と方法）
７．ライティング（フィードバック）
８．語彙（記憶術）
９．授業案作成、授業観察、授業分析
10．観点別評価と評定（規準と基準）
11．テスティング１（妥当性、信頼性，実用性）
12．テスティング２（項目改善）
13．テスティング３（項目分析）
14．定期試験

【成績評価の方法】
課題提出（36%）、レポート（24%）、定期試験（40%）の合算点を基本とし、複数回行う英語学力テスト（小テスト）の結果を勘案して、総合的に判断する。

【教科書】
コースノート使用予定

【参考文献】

１．白畑他（著）2000『英語教育用語辞典』大修館書店
２．Richards, J., and Schmidt, R. (eds.) 2002 . Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics, Third Edition. Longman.
３．青木（編）1990, 1994『英語授業実例事典Ⅰ, Ⅱ』大修館書店
４．青木（編著）1990『英語授業の組立て』開隆堂
５．山田、望月（編）1996『私の英語授業』大修館書店

【備考】
各学期、２回を超えて欠席した場合、出席不足（X:無評価）として処理する。

科目名			
英語科教育法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	通期	4単位	島田勝正

【講義概要・学習目標】
「英語科教育法 Ⅰ」で得た知見を基盤に、英語科の指導と評価の演習を行う。したがって、本講義は、英語教員養成カリキュラム上、「英語科教育法 Ⅰ」と「教育実習 Ⅰ, Ⅱ」との橋渡しとして位置づけられる。
具体的には、授業提案（授業案作成－授業提案－授業観察－授業分析－授業案改善－授業再提案の過程を経る）を通して、英語授業の構成能力を錬磨する。
すべての授業は、「教育実習」を射程に入れたワークショップである。

【講義計画】
授業の前半を「英語科教育法Ⅰ」の復習に当てる。
授業の後半を受講生の「授業提案」に当てる。

【成績評価の方法】
授業参加（42%）、授業提案（30%）、レポートまたはテスト（28%）の合算点を基本とし、複数回実施する英語学力テスト（小テスト）を勘案して、総合的に判断する。

【教科書】
コースノート使用予定

【参考文献】
1．白畑他（著）2000『英語教育用語辞典』大修館書店
2．Richards, J., and Schmidt, R. (eds.) 2002 . Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics, Third Edition. Longman.
3．青木（編）1990, 1994『英語授業実例事典 Ⅰ, Ⅱ』大修館書店
4．青木（編著）1990『英語授業の組立て』開隆堂
5．山田、望月（編）1996『私の英語授業』大修館書店

【備考】
原則として「英語科教育法Ⅱ」は「英語科教育法Ⅰ」を修得した後で履修すること。
各学期、２回を超えて欠席した場合、出席不足（X:無評価）として処理する。

科目名			
英語学概論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	春学期集中	4単位	南條健助

【講義概要・学習目標】
この授業でいう「英語学（English linguistics)」とは、英語という特定の言語を対象とした理論言語学（theoretical linguistics）のことである。理論言語学とは、理論物理学と同じ手法で言語を科学的に研究し、人間の脳の中にあると仮定されている言語機能（language faculty）の仕組みを解明しようとする経験科学であって、「理学部の中で研究されていてもおかしくない」「理系の中で最も文系に近い学問」とも言われる。
この授業では、英語の中に見られる「言語の本質にかかわる普遍的な原理」と「英語という言語に特有の性質」をさぐりながら、「英語とはどのような言語なのか」を概観する。半年間で英語学研究のほぼ全領域を概説し、英語学の研究方法と最新の研究成果に関する基本的な知識を与える。
なお、日本語の母語話者が英語学を研究する場合には、母語の言語的直観を利用するという意味でも、言語の普遍性と個別性を明らかにするという意味でも、日本語との対照研究がきわめて重要であるから、授業では、できるだけ英語と日本語の共通点と相違点を浮き彫りにするように心がけたい。

【講義計画】
1．入門編
2．音声学と音韻論
3．形態論とレキシコン
4．生成統語論
5．情報構造と機能的構文論
6．意味論と語用論
7．英語史と世界の英語

【成績評価の方法】
原則として、定期試験（80%）と提出課題や小テスト（20%）を総合して評価する。定期試験では、欠かさず授業に出席して、きちんとノートを取っていなければ解答できない問題を出題する。また、８回以上欠席した者には、定期試験の成績にかかわらず、単位は与えられない。授業中、私語をする学生には即座に退室してもらい、その日は欠席扱いとする。

【教科書】
開講時までに指定する。

【参考文献】
授業中に紹介する。

科　目　名			
英語学概論			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
02	秋学期集中	4単位	林　宅　男

【講義概要・学習目標】
注意：この授業は、留学生を含んで英語で授業を受けたい学生を対象に、日本語を交えて英語で行われる。

This class will be taught both in Japanese and English and for students who want to take a course in English, including those from abroad.

英語学は言語学の一分野であり、話し手の持つ言語知識、言語使用及びそれらの根底にある基本的原理を扱う。授業では、英語の歴史、音声、意味、文法、用法などについて広い範囲に亘って基本的な内容の紹介をする。

"English linguistics" is a branch of linguistics, which aims to find out the nature of the speaker's knowledge of language, how the knowledge is used, and principles and mechanisms underlying the knowledge and use of language. This is an introductory course of English linguistics through which students will learn a wide range of matters on English such as how sounds are made and changed (phonetics and phonology), how words are made (morphology), how meanings of words and sentences are analyzed conceptually (semantics), how phrases and sentences are formed (syntax), how people use language in communication (pragmatics) and how English was formed historically.

【講義計画】
（1）序
（2）英語史
（3）音声学・音韻論
（4）形態論
（5）統語論
（6）意味論
（7）語用論
（8）社会言語学
（9）心理言語学

（1）Introduction
（2）History of English
（3）Phonetics and Phonology
（4）Morphology
（5）Syntax
（6）Semantics
（7）Pragmatics
（8）Sociolingustics
（9）Psycholiguistics

【成績評価の方法】
出席、平常、中間、期末試験、授業態度

attendance, quiz, mid-term and final examinations, class participation

【教科書】
1．影山太郎・Brent de Chene・日比谷潤子（著）
「First Steps in English Linguistics ?英語言語学の第一歩」
くろしお出版

2．プリント

【参考文献】
1．Madelon E. Heatherington（著）　児玉仁士・阿部一（編注）
How Language Works ?英語学入門　金星堂
2．安藤貞夫・澤田治美（編）　「英語学入門」開拓者
3．西光義光（編）「日英対象による英語学概論」くろしお出版

【備考】
研究室と連絡先
Office Room 801, St. Andrew's Building
For Questions etc. contact:thayashi@andrew.ac.jp
英語による授業です

科目名			
英語学研究－言語習得論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期集中	4単位	Kevin R. Gregg（ケビン グレッグ）

【講義概要・学習目標】
我々は、母語に関しては非常に複雑かつ微妙な知識を持っているが、その知識は我々が平易に喋ったり聞いたりする言語行動の基盤である。しかし、その知識をどうやって得られたかという問題は、案外説明しにくい問題である。本授業では、乳幼児の母語（特に英語）の習得過程のデータを考察しながら、説明を探る。（「説明する」と言っていないのに注意。）
うまくいけば、受講生は次の目的を達成する：
・科学理論や方法の対象としての習得問題の特徴への理解
・自然科学としての言語学と言語習得論との位置付けへの理解
・習得問題の複雑さや解きにくさへの理解
・習得研究を評価する（ある程度の）能力
・習得研究が示唆する、こころに関する帰結への理解

【講義計画】
1）背景知識：
・科学の基礎概念:仮説形成と仮説検証、証拠と反証、予測と説明、最良説明への推論、など
・言語習得論の基礎概念：言語能力と言語運用、刺激の貧困、学習可能性、普遍文法、原理とパラメータ、など
・学習の種類：帰納法、演繹法、連合、列挙、刷り込み
・こころに対する２つのアプローチ：経験主義と生得論
2）研究データや仮説
・初期状態：乳幼児の生得の知識
・語や文法の習得：具体例
・習得の原理
・入力の役割：肯定証拠、否定証拠、「母親語」
・言語の異常：言語障害者、自閉症、「狼子女」など

【成績評価の方法】
小テストも学期末試験も行なう。

【教科書】
S. Pinker 著、椋田直子訳『言語を生みだす本能（上、下）』NHK, 1995

科目名			
英語史			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	野原康弘

【講義概要・学習目標】
イギリスを旅してまわると、いろいろな場所で、いろいろな民族が残したものを見ることができる。南西部のソールズベリー平原には、ケルト民族以前の住民たちの遺産「ストーンヘンジ」が今でも謎のまま残されている。ケルト民族伝説のアーサー王の城だったといわれているものは、あちこちに存在している。イングランド北部を横断している「ハドリアヌスの城壁」は、約２千年前のローマ人のブリテン島支配を今なお見せつけている。東部の海岸は「サクソン海岸」と呼ばれ、ゲルマン民族の侵略と征服を今に伝えている。「リンディスファーンの破壊された修道院」はヴァイキング侵略の激しさを物語っている。おびただしい数の「フランス語からの借用」は1066年以後、約300年間、フランス語を話すノルマン人支配を知らしめている。このような外的な歴史の変化にともなって、英語という言語がもたらされ、それ自体も大きく変化してきたのである。この講義では「英語」という言語が外的な歴史と関連して、「英語」自体の内的な歴史をどのように展開してきたかを学んでいくことになる。

【講義計画】
1．英語の祖先語
2．ケルト民族の遺産
3．ローマ人による征服
4．ゲルマン人による征服
5．英語の始まり
6．古期英語
7．ヴァイキングによる侵略
8．ノルマン人による征服
9．中期英語
10. Chaucerの英語
11. 近代英語の始まり
12. 英国のルネサンス
13. Shakespeareの英語
14. 聖書の英語
15. 近代英語後期
16. 語形成
17. 意味の変化
18. 統語法の変化
19. 世界の英語
(講義の順番は変更する場合があります)

【成績評価の方法】
出席を重視。
学期末にレポート提出。

【教科書】
最初の授業で指示します。

【参考文献】
授業中にその都度指示します。

科　目　名			
英語表現文法			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	春学期集中	4単位	三　宅　　亨

【講義概要・学習目標】

言葉を用いて聞き手や読み手に自分の伝えたい内容（意味）を表現するには、まず語彙を身につけることが必要である。しかし、いくら語彙が増えても、その使い方を知らなければ、日常会話の初歩的な決まり文句程度の片言の域を超えない。いくつかの語を適切につなぎ、正確に意味の伝わる文を作り出す能力（文法知識）が欠かせない。文は単に語が無秩序に並んだものではなく、一定のルールに従って組み立てられたものである。その構造を理解しなければ、文を読んだり、書いたり、聴いたり、話したりすることはできない。

この講義では、英語でのコミュニケーションをはかる際に求められる統語論を中心に、高校卒業までに身につけた基礎的な英文法知識を現実に使われている英語と比べて整理し直し、実際に英語が使えるようにするという実用面と、同時に伝統文法から最新の言語理論面への橋渡しを試みる。この科目は英語習得の基礎になるので１年次に履修することが望ましい。

【講義計画】

1．文
2．動詞と文型
3．時制と相
4．態
5．話法
6．助動詞
7．法と条件文
8．否定
9．形容詞
10．形容詞の型
11．副詞類
12．情報構造
13．文の構成要素の移動

【成績評価の方法】

まず、出席を重視する。欠席・遅刻には厳しく対処する。正当な理由なくして６回以上欠席した学生には、それ以降の授業出席を認めない。

定期試験はもちろんのこと、日常の学習参加への熱意（participation）と小テストやレポートの成績などに基づき、総合的に評価する。

【教科書】

毎回、handoutsを配布する。

【参考文献】

その都度指示する。

科　目　名			
英米演劇研究－名場面を読み、観る			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	4単位	金　城　盛　紀

【講義概要・学習目標】

シェイクスピアから現代まで、英米演劇の代表作を取り上げて考えてみたい。「名場面」を原文で読み、テープで聴き、そして全体をビデオで観て、討論したい。小説とは違う戯曲・演劇に少しでも慣れ親しみ、これから自分で読んだり観たりして、人生をより楽しく、豊かにする助けになれば有難い。

【講義計画】

シェイクスピア『ロミオとジュリエット』、『空騒ぎ』、ショー原作『マイ・フェア・レディー』、オズボーン、『怒りを込めて振り返れ』、ウィリアムズ『欲望という名の電車』、ミラー『セールスマンの死』、オールビー『ヴァージニア・ウルフなんかこわくない』などを対象にしたいが、受講者の反応をみて調整したい。

【成績評価の方法】

平常点とレポートによる。

【教科書】

プリントを用意する。

科目名			
英米詩研究－英詩の楽しみ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期集中	4単位	岡田章子

【講義概要・学習目標】
本講義は親しみやすい英米詩を少しずつ読み進みながら、美とは何か、真理とは何か、人間とは何かを考えて行くことを目的とする。詩を読むことにあまり慣れていない学生も、好きな詩人に出会い、詩の心に触れる喜びを知ってもらいたい。そうすれば自分の生きている姿が見えてきて、より深く自分を考えるようになるだろう。これは現代のあわただしい社会において非常に貴重なものである。

このテキストにはイングランド、スコットランド、アイルランド、アメリカの詩人の作品が納められている。年代も16世紀のShakespeareから、少し後のBen JonsonやGeorge Herbertを経て19世紀ロマン派の詩人、Emily DickinsonやChristina Rossettiのような女流詩人、さらには20世紀の学者詩人Edmund Blundenに至るまで幅広く網羅している。この中でも比較的読みやすいものを選びながら詩の楽しみを見いだしたいと思う。

詩は散文よりは難解で丹念に読まなければならない。そのために学生は毎時間自分で下読みをしてかならず授業に出席し、授業で学んだ作品は自分で繰り返し読む必要がある。また詩人の伝記、詩人の生きた時代の社会情勢なども自分で研究しなければならない。多くの読書が必要である。

【講義計画】
1．英詩の基礎知識
2．詩人の伝記
3．英米詩講読

【成績評価の方法】
定期試験、平常点

【教科書】
『入門英米詩選』斉藤和明　解説注釈（研究社小英叢書）
＜ISBN４-327-01221-１＞

【参考文献】
”An Introduction to English Poetry” by Laurence Lerner (Edward Arnold, 1975)

科目名			
英米小説研究－批評を読む：メルヴィル			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	佐々木英哲

【講義概要・学習目標】
人間の行動や心の動きを知ろうとする者も、社会や自然の現象を解明しようとする者も、手順としては、対象を観察／計測／分析／解釈／解読し、必要ならば仮説をたてて実証し、数値化／記号化しながら記述していく、というプロセスを踏んでいる。医師はレントゲン写真や生体データを、気象学者は天気図を、美術評論家は芸術作品を「読む」。今、観察／解釈／解読すべき対象を広義の意味で「テキスト」として捉えれば、我々は「文学」「テキスト」を「読む」ことになる。ここでテキストの「解読結果／読み込み」に社会的意義が認められなければ他人は見向きもしないだろう。さらに「読解」後の作業として解読結果を「説明／記述」することになるが、その際、他人と同じ土俵に立ち同じ約束事に従わねば人は相手にしないし、記述に説得力をもたせねば人は耳を傾けない。

昨今、説明責任（accountability）という言葉をよく耳にする。これは主に公的機関や企業の社会活動・権限行使について言われているものであるが、個人の行動についても同じことが言える。我々の文学的営為、つまり曖昧模糊とした「現象／テキスト」を分析し解釈する行為、についても言える。我々は自らが施した「文学」「テキスト」解釈に説明責任を負っている。「(病状／生体)テキスト」を誤読し医療過誤を犯した医師が、説明責任を負うように、だ。人に自分の行為を説明する能力、言語化する能力がないと、これからの社会を生き抜くことは困難を極めることになりかねないのだ。急いで付言すれば、この言語化する能力に関わる問題は、逆説めいた言い方になるが、語学力を身につけるだけで解決するほど、単純でもないし甘くもない。

我々としても、文学「テキスト」を「読み」取って、それを「記述」する（レポートする、英語で論文を書く、英語で討論する）ことを、将来的な目標として据えておきたい。兵法としては、敵と戦闘を交わす前に敵の正体を見定める、まずは斥候を出し敵の陣営に探りを入れてみる、という定石に従う。つまり本格的に自分の論文に取り組む前に、まずは文学「テキスト」にあたり、範とすべき英語論文にあたってみる。先達の偉業に触れてみる。ならば、英語論文はどのように読み進めていけばよいのだろうか？この授業の中心的作業は英語論文を読むことだ。

【講義計画】
外国語の壁、異文化の壁を乗り越えて、文学「テキスト」に肉薄することを念頭に置き、この授業では、Herman Melville (1819-91) の遺作 Billy Budd (1924) を扱った論文を読んでいく。念のため申し添えておくが、授業は地味な作業の積み重ねである。（1）Billy Budd はあらかじめ読んでいることを前提に授業を進めていく。翻訳でもかまわないので、読んでおくこと。なお、「さわり」となる部分については原文で紹介することも考えている。（全体の１/６程度の時間を費やす）（2）次に英米の研究者達がこの作品について論じた「批評」を読んでいく（2/３程度の時間)。この際、我々が学ぶべきことは次のとおり。すなわち、論者達はどのような問題意識を抱いてこの作品に立ち向かっているのか。どのように「切り込んで」いるのか。その「切り口」からどのように分析し、どのように解釈しているのか。工学用語を使って言えば、いかなる「計測機器」を使って分析しているのか。「問題」のありかはどこか。医学的用語を借用して言えば、どこに「病巣」があるのか。何が何故、問題となるのか。問題への対応策／治療法はあるのか。それらをどのように論文の形でまとめあげているのか。何を論拠に議論しているのか。無論、「論文／批評」自体も「テキスト」である事実には変わりなく、我々読み手としては、批判的スタンスで「テキスト」に接することで、英米の研究者の側に安易に与することは避けたいと思っている。そもそも「知」の存在意義は、先行研究を批判的に乗り越えることにあるわけだから、英米の専門家だからといって、なにも萎縮するには及ばない。（3）海外の研究論文の収集方法に習熟する。さらに欲張って、自分で短い英語論文を実際に書いてみる作業も試みる（1/６程度の時間)。

具体的には、以下の論文（批評）に取り組む。

Adler, Joyce Sparer. "Billy Budd and Melville's Philosophy of War." PMLA 91 (1976) : 266-78.
Willett, Ralph W. "Nelson and Vere: Hero and Victim in Billy Budd, Sailor." PMLA 82 (1967) : 370-76.
Rathbun, John W. "Billy Budd and the Limits of Perception." Nineteenth Century Fiction 20, 1 (1965) : 19-35.

【成績評価の方法】
毎回、授業開始時に行う小テスト、授業貢献度（出席回数ではないので、誤解のないように）、学期末レポートから総合的に判断。

【教科書】
コピーを配布。

【参考文献】
Milder, Robert, ed. Critical Essays on Melville's Billy Budd, Sailor. Boston : G.K. Hall, 1989.

科目名			
英米小説研究－「ライ麦畑」をつかまえる			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	通期	4単位	伊藤貞基

【講義概要・学習目標】
村上春樹による新訳発表（2003.4、文庫本化 2006白水社）で、大きな話題を呼んだJ. D. Salinger（1919- ）のThe Catcher in the Rye（1951）を読む。この作品は言うまでもなく第二次大戦後の大きな社会変化の中で、アメリカの物質主義、俗物精神に反発し、仏教や原始キリスト教に救済を見出そうとしたSalingerの代表作であり、また20世紀版イニシエーション・ストーリー（「成長物語」）の古典とされる作品である。物語は、少年期から大人への過渡期にある高校生の少年が、この年頃の少年に特有の潔癖さと純粋さの故に、自分をとりまく人間関係、社会生活を営むために案出された大人の世界の現実の中にうまく入り込めずに苦闘する姿が描かれる。大人達のずるさや偽善、精神の下劣さ低俗さ、根性の汚さ、不潔さを鋭敏な感覚で感じ取り、主人公の少年は大人になることを徹底的に拒否しようとする。この点が現代の大衆社会の中での人間性回復の願いと通じ合う。大人達の世界の「いんちきさ」に反発する主人公の少年の青春彷徨を通して、主人公の少年そして作者はどのような世界観に辿り着くのであろうか。文学テキストを読む楽しさを味わいながら、「青春とは何か」、「生きる」とどういうことなのかを考えてみてもらいたい。この作品が持つ生き生きした口語体英語の見事さも楽しめるであろう。

【講義計画】
Penguin版で26章、192頁からからなるこの作品を１回の授業で１章づつ読んでいく予定。各章の冒頭部分を学生が訳読する形をとる。予習と復習を徹底するために、各章の内容についてのStudy Questions（課題レポート）を隔週で提出してもらう。他に年度末近くに、Ｂ４　１枚にまとめた作品全体についての質問課題 'Topics for Discussion' および 'Term Paper Topics' を課する予定。

【成績評価の方法】
筆記試験、教室での発表、授業態度、課題レポートの提出頻度、出席状況を総合して評価する。

【教科書】
Jerome D. Salinger, Catcher in the Rye. (Penguin Books) ISBN 0-14-023749-6

【参考文献】
1）村上春樹訳『キャチャー・イン・ザ・ライ』 白水社（¥820）
2）田中啓介『「ライ麦畑のキャッチャー」の世界』開文社出版 1994
3）野間正二『「キャッチャー・イン・ザ・ライ」の謎を解く』創元社　2003.10
4）村上春樹・柴田元幸『翻訳夜話　サリンジャー戦記』 文春新書（330） 2003.07

科目名			
英米文学概論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	春学期集中	4単位	小野良子

【講義概要・学習目標】
ゆりかごから墓場まで--幼年期から壮年期まで、人生の局面を英米文学作品を通じて考える。英米文化圏の人々の文学体験、あるいは人生を疑似体験する。
英語教員を目指す人のために、英文読解と作品理解にポイントを置く。

【講義計画】
２回で一作品を読んでいく（英文）。映画化されている作品は、映画の一部を鑑賞する。

１.『不思議の国のアリス』
２.『ナルニア国物語』
３.『ライ麦畑で捕まえて』
４.『オリバー・ツイスト』
５.『グレート・ギャツビー』
６.『嵐が丘』
７.『自負と偏見』
８.『碾き臼』
９.『ガラスの動物園』
10.『セールスマンの死』
11.『管理人』

【成績評価の方法】
１．小レポート
２．期末レポート

【教科書】
プリントを配布する。

【参考文献】
授業で通知する。

科目名			
英米文学概論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
02	秋学期集中	4単位	中井紀明

【講義概要・学習目標】
文学とは何だろうか。文学の「定義」は難しいが、具体的な「文学作品」をあげることは難しいことではない。夏目漱石をはじめようとするいわゆる「古典的」文学作品から宮部みゆきの現代ミステリー『誰か』そして有名無名の「文学」作品が巷にあふれている。我々も英文学科で小説、詩、演劇作品など様々な英米文学作品を読んでいる。この講義では、まず一時的に作品から一歩離れて、「文学」の定義を試みる。村上春樹や宮部みゆきを読むことは簡単なことであるが、文学を専門に「研究」するというのはどのようなことをすることなのか。読みに何か特別な「専門家」らしきことを加えることなのだろか。英米文学を「専攻」するというのは何か特別な「研究方法」を習得することなのだろうか。おおむね「講義計画」に沿って諸問題を考えていくが、この日本で英米文学を研究するとはどういうことかも考える。

【講義計画】
１．文学とは何か
２．文学を研究するとはどのようなことをすることなのか（文学理論・批評）
３．英語の歴史を90分で概観しよう
４．詩的言語はあるのか
５．読むとはどのような行為か（意味と解釈そして文学能力）
６．作者は死んだのか（作者・テクスト・読者）
７．修辞学、詩学（英米詩）
８．ナラトロジー（英米小説）
９．Shakespeareという巨人（英米演劇）
10．文学と政治（イデオロギー）

【成績評価の方法】
１．平常点（出席重視は当然であるが、毎回配布される原文資料集をきっちり読みこなせているかがポイントになる。）
２．小テスト、定期テストとレポート

【教科書】
詩については編集したプリントを配布する。小説はメアリー・シェリー作『フランケンシュタイン』角川書店を読む。廣野由美子著『批評理論入門』中公新書で批評理論を学ぶ。劇はシェイクスピアの作品を一つ読んでもらう。

【参考文献】
Robert Eaglestone, Doing English
Jonathan Culler, Literary Theory
Geroge Lakoff, Metaphors We Live by
Robert Scholes, Elements of Literature
他は授業中に言及する。

科　目　名			
英米文学と現代の諸問題－愛と自立			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	4単位	伊　藤　貞　基

【講義概要・学習目標】

女性の社会的地位の向上に伴い自己意識に目覚め、結婚しない女性やシングルマザーが増え、また、レズビアン・カップルなども現れ、結婚してもDINKS（子供を持たない共働きのカップル）を志向する女性が増えるなど、現代の女性の愛の在り方はさまざまである。自立意識に目覚めた現代のアメリカ女性の姿を女性の視点から描いた短篇を幾つか読む。いずれもみずみずしい、女性的な感覚に満ち溢れたすぐれた作品ばかりで、現代のアメリカ女性の考え方やアメリカ社会の雰囲気を楽しみながら英語の読解力を高め、同時に、文学テキストの読み方を身につけることを目指す。授業はBobbie Ann Masonの“Shiloh”は夫と別れ、母親からも離れて、自分自身に忠実に生きようとする妻の話、Laurie Colwinの“The Lone Pilgrim”は、結婚という未知の領域に踏み込もうとする女性の内面の不安を見事に描きだしたもの。Ann Beattieの“It's Another Day in Big Bear City, California”は、奔放に振る舞うようになった妻のやることについていけなくなった夫のいらだちと不安を、Jayne Anne Phillipsの“Home”は、母娘間の世代感覚のずれを中心に、現代の男女関係や母娘関係を描いたものである。

【講義計画】

1) Bobbie Ann Mason, “Shiloh”
2) Ann Beattie, “It's Another Day in Big Bear City, California”
3) Jayne Anne Phillips, “Home”
4) Laurie Colwin, “The Lone Pilgrim”

授業は精読を中心に進める。学生諸君の授業への積極的な参加を期待する。

【成績評価の方法】

平常点（授業への出席数、授業中の態度、授業への参加度）と筆記試験およびレポート（感想文）

【教科書】

伊藤・馬場　編注　『現代アメリカ女流傑作選』(New Women and New Fiction) 英宝社　　ISBN 4-269-03035-6

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する。

科　目　名			
英米文学と現代の諸問題－家族の絆			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	4単位	伊　藤　貞　基

【講義概要・学習目標】

三世代同居の大家族の時代から核家族の時代へ、そして性革命と女性の自立、シングルやDINKS（子供を持たない共働きのカップル）の時代を経て、老齢化社会へという変化の中で、現代の「家族」は大きく揺れ動いている。未婚や離婚による「片親家庭」や再婚による「混合家族」の出現、同性愛者のカップルとその養子、目覚ましい勢で進歩する生殖技術などなど。人々はいったい「家族」に何を求めているのだろうか。夫婦・親子・兄弟/姉妹間の絆や世代間のギャップに人々はどう対応しているのだろうか。文学作品が描き出す様々なアメリカの家族像－夫婦愛、他者への愛、兄弟愛、人類的な愛－を通して、現代社会が家族に突き付けている難問や課題を考察し、「家族とは何なのか」「21世紀の家族像はどういうものになるのか」を考えてみたい。

【講義計画】

以下の短篇を精読していく。

1）“My Son the Murderer” by Bernard Malamud (1968)
2）“Still of Some Use” by John Updike (1987)
3）“Elephant” by Raymond Carver (1987)
4）“Afloat” by Ann Beattie (1982)
5）“Teenage Wasteland” by Anne Tyler (1984)
6）“Territory” by David Leavitt (1984)

【成績評価の方法】

平常点（授業への出席数、授業中の態度、授業への参加度）と筆記試験・レポート（感想文）

【教科書】

井上・水野・島津　編注　『アメリカン・ファミリー』(American Families) 三修社ISBN 4-384-31023-4 及びプリント

【参考文献】

1）Barbara H. Solomon (ed. and with an introduction), American Families. A Mentor Book.1989
2）岡田光世『アメリカの家族』岩波新書　2000.5.19

科　目　名			
英米文学と現代の諸問題－人間の諸相			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	通期	4単位	和　栗　　了

【講義概要・学習目標】
アメリカの文学を代表する Adventures of Huckleberry Finn を読みながら、Huck という少年が何をどのように観て，どのように表現するのかを、ともに議論する。それにより、人間に対するさまざまな見方と社会の観察方法を知ると同時に、人間とは何かを議論できるようになることを目標とする。
　社会の根底にありながら、Huckは社会の全体像が見えている。それは彼が人間の深層をつかもうとしているから可能なのである。我々はとかく表層にあるものに眼を奪われ、現実と言われるものに翻弄されて生きている。
　だが、人間の根底にあるものを理解しようとする時、この世界の全体像が見えてくることがある。現代社会に生きるからこそ、じっくりと人間の根底にあるものを考えてみたい。

【講義計画】
基本的にはレポーターの発表とそれに続く受講生の議論で授業を進める。
授業の進度は、毎回２章分を読み進めることを目標とするが、受講生との話し合いで決める。

【成績評価の方法】
前期末と後期末のレポートが50パーセント、授業中の議論への参加具合25パーセント、レポーターとしての働き25パーセント、とする。

【教科書】
Mark Twain.　Adventures of Huckleberry Finn.　New York: W.W.
Norton, 1998 (Norton Critical Edition, paper) .

【参考文献】
Ryo Waguri.　Mark Twain and Strangers.東京:英宝社, 2004.

「演習Ⅰ」クラス・研究テーマ一覧

ｸﾗｽ	担当者	研究テーマ	ﾍﾟｰｼﾞ
01	辻　洋一郎	『リテラシー』の基礎を養う	33
02	井田憲計	経済学、はじめの一歩	33
03	一ノ瀬　篤	株価を考える	34
04	桂　昭政	現代の日本の雇用と経済社会について考える	34
05	熊谷次郎	経済とは、経済学とは、何だろうか	35
06	厳　善平	新聞を読んで社会経済の動きを知ろう！	35
07	唐　成	データで読み解く日本経済	36
08	鈴木　健	新聞記事を素材に経済の仕組みを理解しよう	36
09	滝田和夫	経済学入門	37
10	竹原憲雄	日本の経済を知る	37
11	唐　成	データで読み解く日本経済	36
12	中野瑞彦	社会の動きから経済を学ぼう	38
13	中村勝之	数字は全てを物語る！ ～簿記＆財務諸表分析入門～	38
14	西川憲二	経済学への入門	39
15	藤田　香	経済と社会について考える	39
16	前田治郎	社説を読む	40
17	松尾　純	経済学部に入学したけれど・・・	40
18	望月和彦	ディベートから入る学生生活	41
19	矢根眞二	Webとディベートで学ぶ コミュニケーションの基礎	41
20	吉田恵子	新聞から読みとる経済事情	42

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	通期	4単位	辻　洋一郎

【講義概要・学習目標】
入学おめでとうございます。
本来、「演習」科目は、課題について自分で調べ・考えたことを「発表し、みんなで討論する」場です。とはいえ、誰しもすぐにホイホイと思った通りに発表し、討論できるわけではありません。そこでこの「演習Ⅰ」では、次年次以降の演習科目で成果が上がるために必要な、①考え方の技術や②演習の作法を学習します。

【講義計画】
春学期最初の数回は、大学生活に慣れること、施設の紹介や使い方を学びます。慣れるにつれて、いろいろな教材（ゲームやビデオ、映画）を使って、思考の技術、表現の仕方の勉強をします。

【成績評価の方法】
出席を重視します。
やむを得ず欠席する場合は、事前に担当教員に連絡すること。

【教科書】
使いません。必要に応じて資料やプリントを配布します。

【参考文献】
必要に応じて講義中に指示します。

【備考】
テーマ：『リテラシー』の基礎を養う
AO生対象クラス

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
02	通期	4単位	井田憲計

【講義概要・学習目標】
テーマ「経済学、はじめの一歩」
　大学生活を始めるにあたってのオリエンテーションの後、経済学を学ぶ意義や方法について基礎的なガイダンスを行う。
　少人数のゼミナール形式で、テキストの輪読、発表、討論を通じて、経済学部での大学生活に必要なノウハウと習慣を身に付けることを目指す。

【講義計画】
1．大学生入門
　　オリエンテーション
　　パソコン演習
2．経済学部入門
　　レジュメ作成
　　報告と討論
3．経済学入門
　　レポート作成

【成績評価の方法】
出席（無断欠席は許されない）、報告、レポートなどを総合的に評価する。

【教科書】
まずは、以下のテキストを手始めとする。
佐々木俊尚『グーグルGoogle―既存のビジネスを破壊する―』文春新書（￥760＋税）

【参考文献】
適宜指示する。

【備考】
テーマ：経済学、はじめの一歩

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
03	通期	4単位	一ノ瀬　　篤

【講義概要・学習目標】
株（式）とは何か、株価とは何か、株価はどうして決まるのか、株式市場の仕組みはどうかなど、株・株価・株式市場の基本知識を身につけることが目標であり、演習の内容でもある。
受講者には 以上のような問題について調べたり考えたりして、報告してもらう。１回の演習で２人ないし３人の報告を受ける。

【講義計画】
（テーマ）株価を考える
上記テーマの下に、次のようなことを共に考えて行く。
①株価（株式の価格）の騰落はなぜ起こるのか。
②株価はどんな要因で上がったり下がったりするのか。
③そもそも株式とは、株式会社とは何なのか。
④株式取引はどこで行われているのか。
⑤自分が株で儲けると他の人が損をするのか。
⑥最近の株式市場はどのように変容しているのか。

【成績評価の方法】
日頃の報告、質疑、受講態度、および、習得知識の確認のために折々行う小テストを総合的に勘案する。

【教科書】
日本経済新聞社『株価の見方』（日経文庫）

【参考文献】
参考文献は、その都度指示する。特に初回に参考資料リストを配布する。

【備考】
テーマ：株価を考える

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
04	通期	4単位	桂　　昭　政

【講義概要・学習目標】
日本の経済社会は90年代を境にして大きく変化した。比較的平等な横並び社会から縦並び社会あるいは格差社会へと変化した。それと歩調を合わせて雇用、働き方の面においても正社員とパート・派遣社員への二極化ないし格差が進行した。演習１ではこの変化の実態を勉強し、現在の厳しい経済社会についての認識を深めるとともにその対応について考えていきたい。

【講義計画】
２冊の教科書のうちまず『働くということ』をとりあげ、随時『「人間復興」の経済を目指して』を使用する。授業は上記テキストを題材に全員に報告してもらい、それをもとに討論していきたいと考えている。

【成績評価の方法】
出席をベースに、報告、討論、レポートの評価を加味して判定する。

【教科書】
日本経済新聞社編『働くということ』（日経ビジネス人文庫）
城山三郎・内橋克人『「人間復興」の経済を目指して』（朝日文庫）

【参考文献】
授業中に指示する。

【備考】
テーマ：現代の日本の雇用と経済社会について考える

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
05	通期	4単位	熊谷次郎

【講義概要・学習目標】
経済とか経済学とは何か。こうした問題の基礎的な理解を図るために、日本経済の現状の実証的なデータを素材に、私が説明を中心とする講義を行い、その説明に対する疑問や意見を演習生が自由に出して、演習室全体が「ああだ、こうだ」というディスカッションで充満して熱くなるような演習にしたいと思っている。正確にはそう願っていると言うべきか。それはともあれ、学ぼうとする意欲のある演習生が1年後には経済や経済学に関する基礎的知識を習得し、それがものの見方や考え方に多少とも新たな基準を提供することになれば、この演習の目的は達成されたことになる。

【講義計画】
演習生があらかじめテキストを読んできているという前提のもとで、私がテキストの内容の説明を中心とする講義を行う。その後、こちらから学生諸君に内容に関する質問や意見を求める。この段階から、自由なディスカッションが始まり、このディスカッションに全員が参加することで、学生諸君の頭はブレイン・ストーミングの状態になり、活性化した脳髄は、知識の咀嚼吸収、新たなアイデアの創出を始める。――こうした形になるような講義を計画したい。

【成績評価の方法】
出席、演習での日常の態度（眠らない・私語しない・途中退席しない。積極性、質問や発言の回数や内容など）、レポートなどで総合的に評価。

【教科書】
鈴木正俊『経済データの読み方（新版）』岩波新書、2006年。

【参考文献】
必要に応じてその都度指示。

【備考】
テーマ：経済とは、経済学とは、何だろうか

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
06	通期	4単位	厳善平

【講義概要・学習目標】
皆さんの殆どは大学に在学する間に、成人式を迎え、また、高校までの基礎（受験）勉強に別れを告げ、社会に通用する教養や専門知識を身に付けていく。大学はいわば学校から社会への緩衝地帯であり、架け橋である。
目まぐるしく変化する社会に適応するために、まず必要なのは社会の動きをしっかり捉え、その背景にあるメカニズムを理解できる知識をもつことである。大学はそうした知識を提供する場である。
この演習では、以上のような問題意識の下、近い将来、社会人になる皆さんに経済学の基礎知識を教え、それをもって様々な現実問題を考える。考える力や弁論する力を最大限に伸ばすことを学習の基本目標とする。

【講義計画】
1．『日本経済新聞』などから集めた資料を読み、解説、討論を行う。
2．研究テーマを設定し、個人またはグループでそれを調べる。
3．研究成果を発表し討論する。最終的にレポートを作成する。
4．以上の作業を行うために、コンピュータ実習なども予定している。

【成績評価の方法】
出席状況、研究の成果などで総合的に評価する。

【教科書】
随時配布する。

【備考】
テーマ：新聞を読んで社会経済の動きを知ろう！

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
07 11	通期	4単位	唐（トウ）　成（セイ）

【講義概要・学習目標】
経済・金融現象の変化が我々の日常生活にいい意味でも悪い意味でも影響を与えるという仕組みになっている。であるなら、金利、為替あるいは株価といった非常に基本的な金融・経済現象が自分の生活にどのように影響するかを知ることはとても重要な意味を持つ。それがいろいろな場面で、家計の運営を行う（行動する）ための前提となるからである。本演習は日本経済の統計データをもとに、金融・経済の世界に足を踏み入れ、それぞれ経済現象を分析的にみるだけにとどまらず、それらの現象間に働いている基本的な因果関係を学ぶことを主眼とする。

【講義計画】
★第１回はイントロダクションで、当ゼミの趣旨、ゼミの進め方、テキストの紹介、参加者の自己紹介などを行う。
★ゼミ参加者は、学期を通して次の作業に常に関わってください。
１．春学期は大学生のためのレポートの作成やパソコン知識入門（ワード、エクセルおよびパワーポイント）などを中心に勉強するため、ノートパソコンを事前に情報センターから借りること。
２．秋学期は毎週のゼミの所定のスケジュールにしたがって、テキストを事前に予習して、積極的に討論に参加すること。

【成績評価の方法】
評価方法としては、出席状況、ゼミの発表、討論への積極的参加する姿勢などを重視したい。

【教科書】
初回の演習で指示します。

【参考文献】
初回の演習で指示します。

【備考】
テーマ：データで読み解く日本経済

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
08	通期	4単位	鈴　木　　健

【講義概要・学習目標】
本演習では、充実した大学生活を送るために最低限必要とされる「技・ワザ」を習得し、同時に大学生らしい「ものの見方・考え方」の基礎を修得することを目標としています。本演習はいわば「大学生活入門」とでも言うべきものですが、「入門」をくぐり抜けないと「免許」は与えられないというのは、大学でも同じです。

【講義計画】
春学期中は、主として「技・ワザ」の習得を課題とします。図書館の利用の仕方（本の借り方、資料の利用の仕方、等々）、PC（パソコン）の使い方（メール、インターネットの利用の仕方、等々）、講義の聴き方（ノートのとり方、レポートの書き方、等々）、を中心に、「技・ワザ」を身につけることを目標とする。
秋学期には、大学生らしい「ものの見方・考え方」を修得することを目標とします。新聞の経済記事を素材に皆で考え、討論する、討論の仕方も訓練する。テーマを決めて図書館から本を借り出し、レポートを書いてもらう、レポートはPCで仕上げ、メールで提出する、等々を繰り返し行なうことになるでしょう。

【成績評価の方法】
年間の出欠回数、演習に参加する態度、与えられた課題の達成度、等々を全体として勘案して判断する。出席は３分の２以上が前提となる。

【備考】
テーマ：新聞記事を素材に経済の仕組みを理解しよう

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
09	通期	4単位	滝田和夫

【講義概要・学習目標】

この演習では二つのことを目標にしたい。一つは、これからの大学生活を送っていくのに必要な理解・表現能力を身につけることである。すなわち、論説や新聞を読んだり、あるいは人の話を聞いたりして、それを正しく理解して自分なりに要約することができるようにしたい。また、他人の考えを批判的に摂取・加工して自分の意見を形成し、それを書いたり話したりすることによって、他人に正確に伝えることができるようにしたい。もう一つの目標は、経済学部の学生として現代の社会・経済問題に多少なりとも馴れ親しむことである。経済学部に入ったものの、社会科学とか経済学とは何なのか、あまりよくわからないという諸君も多いことであろう。この演習を通じてそのイメージが多少なりともつかめるようになればよいと思う。

これらの目標に近づくために、この演習の前期では社会・経済問題を素材にして、論説や新聞記事を全員で読んでいく。そして、それを要約したり、関連資料を調べたり、発表したりしながら、全員で討論していきたい。また後期には、各人の研究テーマもとづく個人発表とそれに対する討論を行っていく。

【講義計画】

(前期) はじめに数回、自己紹介や図書館、情報センターなどのオリエンテーションを行う。その後、毎回の演習において、社会・経済問題に関する論説や新聞記事を全員が読み、決められた報告者が事前にそれについて要約したり調べたりしてきた内容をレジュメにして報告し、全員で討論していく。また時々、指定した課題について全員にレポートを提出していただく。夏休み前頃には、各人は自分の研究テーマを設定し、夏休み中にその研究テーマに関する文献や資料を調査する。

(後期) 夏休み中の調査・研究を踏まえて、各人が自分の研究テーマについて調べてきたことを発表し、それに対する討論を行っていく。この作業を何度か積み上げることによって、最終的に各人がある程度まとまった分量の研究レポートを完成させるようにしたい。

【成績評価の方法】

出席、レポート、受講態度、報告、討論などを総合的に評価する。

【教科書】

特に定めず、随時プリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて、随時指示する。

【備考】

テーマ：経済学入門

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
10	通期	4単位	竹原憲雄

【講義概要・学習目標】

経済学は難しいと思う人でも、経済格差とか、それが進む現在の景気回復については耳をかたむけていることが多い。そのうちの何人かは、経済格差は何だろう、どうしてそれが進むのだろうなどと、ちょっとまじめに考える。

実はこうした身近な経済の出来事への関心が、難しいと思っている経済学の入口になる。

しかし経済学は、経済の出来事をあれこれと並べたてるものではない。経済学は、ばらばらに見える経済問題のつながりとそのもとにある全体のしくみと流れ、そしてそれを動かしている原因を明らかにしようとするものである。

この演習では、こうした視点から現在の日本経済の実態・課題を考えてみる。

【講義計画】

1. 図書館ガイダンス、パソコン演習、レジュメの作成・練習等、ゼミを進めるうえでの基本的な知識、スキルの修得。
2. 経済記事、ビデオ教材等により、日常的な日本経済の課題を考える。
3. テキストの分担・報告により、体系的に日本経済を学ぶ。

【成績評価の方法】

ゼミへの出席を第1に、報告や討論、レポートの提出状況によって総合的に評価する。

【教科書】

未定。

【参考文献】

ゼミの中で紹介する。

【備考】

テーマ：日本の経済を知る

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
12	通期	4単位	中　野　瑞　彦

【講義概要・学習目標】
社会事象と経済は密接に結びついている。身近な事象を一つ取ってみても何らかの形で経済と結びついている。しかしながら、残念なことに、ほとんどの人が経済の仕組みを十分に理解しないままに生活している。一方で、経済はあまりに身近であるために、自分なりに「理解」していると思っている人も少なくない。本当にそうだろうか？この演習では、身近な社会事象を通じて経済学の基礎を勉強する。そのためには、社会的常識と思われる事柄も積極的に学習していかなくてはならない。演習参加者には、この演習を通じて、経済に関わる幅広い分野に注目する意識を養ってほしい。

【講義計画】
1．経済問題のグループ討論…経済に関する身近な話題を取り上げてグループで議論し、発表する。
2．パソコン・スキルの習得…経済を分析する上で最低限必要なパソコンのスキル（エクセル）を習得する。
3．テキストの輪読…テキストの内容を分担して報告する。１年間で経済学の基礎的な事項を一通り学習することを目標とする。
4．経済データの分析…経済データが物語る事象を発見し分析する。

【成績評価の方法】
演習への参加態度（積極性）、中間試験（春学期最終回）、各自課題提出レポートによる。

【教科書】
ロム・インターナショナル「他人にきちんと説明できる経済の話」三笠書房

【参考文献】
適宜指示する。

【備考】
テーマ：社会の動きから経済を学ぼう

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
13	通期	4単位	中　村　勝　之

【講義概要・学習目標】
それなりの努力をして、自由を（本当の意味で）謳歌できる大学にせっかく入学できたのだから、思いっきり遊んでやろう…そういう「幻想」を根底から破壊し、来るべき大学卒業後に備えて今から力を蓄えるために、この演習は開講される。そのためにこの演習では２つの目標を掲げ、それに向かって邁進して行く予定にしている。

１つ目の目標は、何がしかの「資格」を取得することである。しかし聞こえは良くても実際には役に立ちそうにない資格も（思いの他）たくさんあるので、ここでは「簿記３級」の取得を目指す。その理由は、実際の企業活動がどんなことをしているのかを簿記の勉強を通じてイメージしてもらうことと、２つ目の目標を達成するのに必要不可欠の知識だからである。

２つ目は、就職活動する上で敵である企業の「実態を暴き出そう」とするための手法の習得を目指す。イメージが良さ気な企業だとしても、本当に（自分にとって）いい企業なのか不明な場合がほとんどである。それ以前に、自分が就職した後でもその企業が継続的に仕事していけるのか、言い換えるとそれだけ儲かっているのかを知る必要がまずある。

やって行くうちに分かってくるが、この演習は他の演習に比べるとやるべきハードルを意識的に高く設定している。しかし実社会の厳しさはこんなものではない。この点だけは肝に銘じて受講に臨んで頂きたい。

【講義計画】
※以下の順序で進めて行く。
①ガイダンス:目標設定
②大学生活の「いろは」の「い」：図書館＆情報センターガイダンス
③有名企業の実態を知ろう
④簿記３級対策
⑤経営分析入門

【成績評価の方法】
①中間試験（春学期末に簿記の試験）
②期末レポート（秋学期末に経営分析に関する報告書）
③平常演習時の参加態度
④簿記３級合格
※上記①～④を総合的に判断する。なお評価に「出席点」は含めない。

【教科書】
第１回演習時に指示する。

【参考文献】
必要に応じて指示する。

【備考】
演習情報などはホームページ（http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura）を参照すること。
テーマ：数字は全てを物語る！～簿記＆財務諸表分析入門～

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
14	通期	4単位	西川憲二

【講義概要・学習目標】
経済学部に入学してどんなことを学ぶのか、経済学って何なのか。どんな役に立つのか。これらを考えるために、いろいろなテーマについて説明しながら議論していきたい。そのような中で、話す練習とレポートを書く練習をする。

【講義計画】
1．大学キャンパス生活
2．ビデオを見てレポートを書いてみよう
3．新聞記事の読み方

【成績評価の方法】
出席、レポート。

【教科書】
なし。

【備考】
テーマ：経済学への入門

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
15	通期	4単位	藤田香

【講義概要・学習目標】
経済学とは何か？

この演習では、身近な経済現象から経済学の基本的な枠組みについて学習します。

経済学は、何の役に立つのか？

経済に関する意味や仕組みを理解するのは「しんどい」です。しかしながら、ひとたび経済学の知識を身につければ、経済の複雑な問題の輪郭がはっきりしてきます。理解できれば、興味がわき、問題の本質を自分で考え、判断することも可能となるでしょう。

この演習を通じて、経済学部での大学生活をうまく過ごせるノウハウを身に着けましょう。

【講義計画】
Ⅰ　大学生入門

①　オリエンテーション
②　パソコン演習

Ⅱ　経済学部入門

①　レジュメ作成の練習
②　小論文
③　新聞の読み方

Ⅲ　経済学入門

①　教室での報告と討論
②　レポート作成

具体的な進め方については、第一回の講義の際に、説明する予定です。

【成績評価の方法】
出席することは前提です。

社会常識やマナーを守って行動しない場合（私語、睡眠、携帯（メール）、飲食、遅刻、途中退出、内職、無断欠席等）は除籍します。

その上で、演習に対する取り組みの積極性（ただじっと座っているだけでは評価しません）、報告、討論、レポート、場合によってはテストにより総合的評価します。

【教科書】
最初の講義で相談の上、決定します。

【参考文献】
必要に応じて、適宜紹介します。

【備考】
テーマ：経済と社会について考える

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
16	通期	4単位	前　田　治　郎

【講義概要・学習目標】
大学での学習スタイルは、高校までのそれとは大きく異なっており、とまどう人も多い。たとえば、決まった答えのない問題（だからこそ研究に値する）を取り上げ、自分独自の見解を見つけだしたり、レジュメ（概要）を提示して自分の意見をわかりやすく説明するプレゼンテーション能力が求められたりする。この演習では、新聞記事を素材にして、まず全員で要旨や論点の整理の仕方を勉強した後、参加者各人に興味のあるテーマ設定をしてもらい、その報告を積み上げた上で最後にレポート作成をしてもらう。

【講義計画】
1．資料収集の研修―図書館、インターネット
2．レジュメ作成の練習
3．各人のテーマ設定
4．教室での報告と討論（反復）
5．レポートの作成

【成績評価の方法】
出席などの平常評価と最後に作成するレポートを総合的に評価する。

【備考】
テーマ：社説を読む

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
17	通期	4単位	松　尾　　純

【講義概要・学習目標】
いま、皆さんは、大学の経済学部に入学したけれども、これから先、どんな生活をおくり、どのように勉学していけば、卒業に必要な単位を無事取得でき、そして　4年後に結果として、どのような未来が開け、どのような職につくことができるのか、いろいろと心配されていることでしょう。
この演習Ⅰは、皆さんのそのような不安を解消して、出来るだけ早く大学生活に馴染むことができるように、いろいろな手助けをする場です。
この演習Ⅰが、学生生活一般・勉学・課外活動などの不安や心配事について、なんでも話し合える場になるようにしたいと考えています。

【講義計画】
1．大学生活に馴染もう。（6回程度）
　キャンパス見学。カリキュラム・ガイダンス。
　情報センターに行ってE-Mail・インターネット等を使えるようになろう。
　図書館を上手に利用し、情報を効率的に取得することが出来るようになろう。
2．最近話題の社会問題について話し合ってみよう――Ⅰ。（7回程度）
　教師が提供する新聞・雑誌記事をテーマにディスカッションしてみよう。
　話し合ったことの要約（＝レジュメ）を作成してみよう。
3．最近話題の社会問題について話し合ってみよう――2。（7回程度）
　学生が提供する新聞・雑誌記事をテーマにディスカッションしてみよう。
　話し合ったことの要約（＝レジュメ）を作成してみよう。
4．学生各人（またはグループ）がテーマを設定して、その研究結果を報告し、討論をしてみよう。（7回程度）
5．研究テーマについてレポートを作成をしよう。

【成績評価の方法】
出席などの平常評価 と 学期末に提出してもらうレポートとを総合評価する。

【備考】
テーマ：経済学部に入学したけれど…

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
18	通期	4単位	望月和彦

【講義概要・学習目標】
テーマ：ディベートから入る学生生活
当ゼミは、ディベート専門ゼミです。ディベートとは、ある問題に対して賛成派と反対派に分かれて議論を戦わすゲームです。おそらくみなさんはこれまでディベートなんてしたことないと思います。そのためできるかどうか心配だと思っている人もいるでしょう。でも心配ありません。私はこれまで10年間、１回生のゼミでディベートをしてきましたが、みなさん熱心にディベートに取り組んでもらいました。
ディベートはゲームですので、勝ち負けがあります。それを判定するのはディベート担当者以外のみなさんです。司会進行やタイムキーパーも学生がするので、全員がいつもディベートに参加することになります。
どのようにディベートするのかについては、テキストを読めばわかりますし、ゼミの最初に説明を行い、ディベートのビデオも見てもらいます。それで十分わかります。
ディベートは、自分の意見をどんどん言えるので、おもしろい授業になります。なかには話すのが苦手という人もいると思いますが、ディベートは一人でするのではなく、グループで行うので心配はいりません。
本年度はディベートの合間に社会問題についてのテキストも読みます。また色々な社会活動にボランティアとして参加する機会も設けます。
ディベートすることにより、社会問題について関心が芽生えてきます。なぜ勉強するのかが分かってきます。自分の判断ができるようになります。このゼミを終えた頃には、世界観が変わった別の自分になっているかも知れません。

【講義計画】
2006年度演習１のディベートテーマ
第１回　死刑制度は廃止すべきか
第２回　日本人は働き過ぎか
第３回　脳死は人の死か
第４回　フリーターは損か？得か？
第５回　ゲームは子どもに有害か
第６回　クローン人間研究
第７回　ゆとり教育
第８回　自殺は容認されるか
第９回　外国人参政権
第10回　少子化は食い止められるか
第11回　有料化でゴミは減るか
第12回　ひきこもりの原因は個人か社会か
第13回　学校給食は廃止すべきか

【成績評価の方法】
出席状況、発表状況、ディベートの勝敗によって評価する。

【教科書】
望月和彦『ディベートのすすめ』有斐閣選書　2003年。

【参考文献】
文藝春秋編集部編『日本の論点』各年版。
小林よしのり『ゴーマニズム宣言』

【備考】
テーマ：ディベートから入る学生生活

科目名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
19	通期	4単位	矢根眞二

【講義概要・学習目標】
これらからの大学や社会での生活を楽しみながら効率的に学習できるような「聞き話す」・「読み書く」というコミュニケーション能力の基礎の確立が学習目標です。具体的には，春には現代の鉛筆であるPC（パソコン）を用いて短いEssayやBLOGを書き，HP上にアップしたりプレゼンしたりする練習を，秋にはチーム対抗のディベート・ゲームを通じて討論したり質問したりする練習を中心に学習します。
ポイントは，1人で黙って聞くことが中心の講義とは違って，いずれの練習にも自分から積極的にコミュニケーションの仕方を工夫する姿勢を持ち楽しみながら取り組むことです。

【講義計画】
●春はもっぱらPCを用いた現代版の「読み書き」の練習が中心で，ネット上の仮想株式取引ゲームにもチャレンジする予定です。取り組む課題が多いので，自分のHPを作ったこともない人は「経済情報処理演習」などを，そもそも文章を書くこと自体が苦手な人は「論述作文」などを履修しておくことを推奨します。
●秋からはディベート・ゲーム中心に切り換え，人前で論理的に明解に話す練習が中心になります。日頃の新聞記事の理解から抽象的な論理力までフル活動させて，自分なりのコミュニケーション・スタイルの基礎を工夫しましょう。
★詳細は開講時の教員サイトを参照して下さい。
http://rio.andrew.ac.jp/~yane/under/sem１/

【成績評価の方法】
●個人的な努力とプログラムの達成度に加え，チームや演習全体への貢献度を加味した平常点をもとに評価します。もっとも「大学・社会の生活を楽しめる基礎的なコミュニケーション能力の基礎の確立」が目的ですから，合格ラインは以下のように緩やかなものです。
●春はもっぱら「言われたこともできない」ようなレベルからの脱却を最低限のラインとし，遅刻をせず提出期限を守るといった自己管理力の確立を目指します。
●秋は「言われたことしかできない」ようなレベルからの脱却を最低限のラインとし，資料の収集や発表の仕方の創意工夫に注目します

【教科書】
●望月和彦（2003）『ディベート入門』有斐閣　1900 → ディベートのテーマ・論点・資料が一目で分かるマニュアルで，本演習ではこれらのテーマから興味のあるものをピックアップしてゲームを行います。
●ブラウン・キーリー（2004）『質問力を鍛える　クリティカル・シンキング練習帳』PHP研究所　1400　→コミュニケーション能力の向上に不可欠な要素である論理力の基礎を確認できる入門書で，エッセイやディベートはもちろん，日常の授業の理解や将来の就職活動等に不可欠な基礎力の修得に活用できます。

【参考文献】
●「日本経済新聞」→ 本演習では「習うより慣れろ」で仮想株式取引ゲームをプレイしますが，日頃の新聞記事に関心が持てればずっと楽しく有意義にプレイできるうえ，そうした知識は経済学の学習や就職活動においても不可欠です。
●野口悠紀雄（2002）『「超」文章法：　伝えたいことをどう書くか』中公新書　780　→本演習や大学の試験のような短い文章から長文のリポートや論文にも共通する幅広い文章作成に便利なマニュアルで，網羅的な参考文献リストは社会人になっても座右に置く価値があるでしょう。

【備考】
テーマ：Webとディベートで学ぶコミュニケーションの基礎

科　目　名			
演習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
20	通期	4単位	吉　田　恵　子

【講義概要・学習目標】
この演習の隔週目標は新聞記事から経済状況を読み取る能力を養うことである。各学期末に自分で選んだ新聞記事をもちいてレポートを作成する。

【講義計画】
簡単な経済用語の説明
指定した新聞記事の読解
レポートの作成

【成績評価の方法】
出席、授業態度、レポートで総合的に判断する。

【教科書】
指定しない

【備考】
テーマ：新聞から読みとる経済事情

「演習Ⅱ」クラス・研究テーマ一覧

ｸﾗｽ	担当者	研究テーマ	ﾍﾟｰｼﾞ
01	阿部　秀二郎	人間と経済活動	44
02	浦出　俊和	環境と経済を考える	44
03	大澤　健	グローバライゼーション	45
04	佐々木　和子	現代史を読み解こう	45
05	田村　剛	地域再生と里山保全	46
06	中村　勝之	ＫＪ法的文章理解法	46
07	松本　誠	地域政策とまちづくりを考える	47
08	三原　裕子	経済学を学んでみる	47
09	山田　雄久	戦後日本の高度経済成長について考える	48
10	吉川　真裕	「金持ち父さん」に学ぶ	48
11	吉川　真裕	株式投資を学ぶ	49
12	道上　真有	ＢＲＩＣｓ（ブリックス）経済と日本	49
13	荒木　英一	人のふり見て、我がふり・・・	50

科　目　名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
01	通期	4単位	阿　部　秀二郎

【講義概要・学習目標】
ここ数年日本は景気が良いといわれています。その企業の業績がいいからですが，反面，消費は伸びていません。物が売れて景気が良くなると消費が増大するという考え方はただしいのでしょうか？我々の生活に密接に関連する消費について考えてみたいと思います。目標は経済学のセオリーを疑い考えてみることです。

【講義計画】
まず次の順序でテキストを読み進めます。
・消費の類型
・消費の歴史
・消費の未来
その後，消費や人間活動に関係することについて，グループを作りテーマを設定し，そのテーマについて調査・研究をしてもらいます。
次に，その調査研究を報告し議論します。
最後に，その調査研究や報告の中から個人的な問題を見つけていってもらいます。

【成績評価の方法】
出席点・読解力点・積極性点・チームワーク点・内容点を総合して決めます。配分は初回にお話してきます。

【教科書】
松原隆一郎著『消費社会主義のゆくえ』ちくま新書, 2000年

【参考文献】
適宜指示します。

【備考】
テーマ：人間と経済活動

科　目　名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
02	通期	4単位	浦　出　俊　和

【講義概要・学習目標】
過去十数年の間に地球温暖化問題は、急速にその重要性が認識され、国際社会においても対応がなされてきた。「京都議定書」は、世界の国々が協力して、気候変動の悪影響を緩和することを目的としている。この「京都議定書」をめぐる諸問題に焦点を当てることによって、地球環境問題の本質を探ることが本演習の目的である。
本演習では、テキストの輪読と報告、およびレポートの作成を通じて、読解力・プレゼンテーション能力・文章作成の向上を図ることを課題としてる。さらに、参加者の討論への積極的な参加を重視する。

【講義計画】
前期では、基本的には、テキストを輪読し、分担報告と討論を順番に行ってもらい、その後、レポートを作成してもらう。
後期には、参加者毎にテーマを設定し、プレゼンテーションをしてもらったり、新たなテキストを用意する予定である。
また、前期・後期とも、テキスト以外に、ビデオを見たり、適宜必要な文献を読んで、同じく討論を行った後に、レポートを作成してもらう予定である。
詳細については、初回に指示する。

【成績評価の方法】
出席状況、報告内容、レポートに加えて、授業参加への積極性（発言機会・内容等）を加味して総合的に評価する。

【教科書】
松橋隆治『京都議定書と地球の再生（NHKブックス949』日本放送出版協会、2002年

【参考文献】
必要に応じて演習の中で紹介する。

【備考】
テーマ：環境と経済を考える

科目名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
03	通期	4単位	大澤　健

【講義概要・学習目標】
経済学を素材として用いながら、受講生のコミュニケーション能力の向上を目指します。「読む」「まとめる」「伝える」「議論する」といった基礎的能力を向上させ、考え方を発展させる方法を習得することを目標としています。

【講義計画】
扱うテーマは「グローバリゼーション」です。
これに関連するビデオを見たり、文献を読み込みながら議論をしていきます。

【成績評価の方法】
平素の授業態度で評価します。

【教科書】
講義初回に受講生の意向を聞いて決定します。

【備考】
テーマ：グローバライゼーション

科目名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
04	通期	4単位	佐々木　和　子

【講義概要・学習目標】
現在、世界や日本で、さまざまな出来事がおこっている。これらを読み解く一つの手がかりが、歴史を振り返ることである。この演習では、前・後期を通じて、国内外の現代史の基礎知識を理解することを目指す。
演習形式の授業とし、お互いの意見を出しあい、深める場とする。テキストを読み解く力の育成を第一とする。自分が理解するだけでなく、さらに人に伝えられるところまで内容を読み取り、まとめる力も目指していく。

【講義計画】
前期
終戦、55年体制、日米安保条約、高度経済成長など日本の戦後の出来事を振り返ってみよう。

後期
東西冷戦、冷戦の崩壊、湾岸戦争など、世界の戦後の出来事を振り返ってみよう。

テーマ毎に輪読形式で、テキストを読んでいく。
順次報告をおこなうことで、テキストの内容を人に伝わるようにしていく。議論を通じて、考えを深めていく。

【成績評価の方法】
出席・課題提出・ゼミ発表など平常点を重視する。

【教科書】
必要に応じて印刷、配布する。

【参考文献】
池上彰『そうだったのか日本現代史』集英社
池上彰『そうだったのか現代史』集英社

その他、適宜授業中に指示する。

【備考】
テーマ：現代史を読み解こう

科　目　名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
05	通期	4単位	田　村　　剛

【講義概要・学習目標】

高度経済成長期以前の里山は、薪炭生産や肥草採取など、人々の生活において重要な役割を果たしていた。しかし、大規模土地開発は里山を消失させ、さらに原燃料の石炭から石油への転換、木材輸入の自由化などにより、しだいに人が里山に寄りつかなくなり、里山の荒廃が進んでいる。

現在、里山の価値が見直され、市民団体やNPOなど様々な団体が中心となり、里山の再生・維持・保全に取り組み、これを通じて里山周辺地域の活性化を図ろうとする動きが広がっている。

本演習では、里山に関する文献を輪読するだけでなく、実際に取り組みへ参加することにより、里山とは何か、その現状、里山をどのように維持管理していくかなどについて考えていく。

【講義計画】

本演習では、文献の輪読と里山の取り組みへの参加の二本立てで行う。文献の輪読に関しては、１冊のテキストを完全に理解するまで読むという方向で進める。具体的には、まずテキストを輪読した後、報告担当者にレジュメを用意してもらい、それに基づいて報告してもらう。次に各出席者に意見を出してもらい、基本的に報告担当者が中心となり、みんなで議論を行う。

里山の取り組みへの参加については、その日時や回数については随時検討する。

【成績評価の方法】

出席状況、報告内容やレポートの出来具合等を考慮して総合的に評価する。

【教科書】

未定

【参考文献】

演習時に随時指示する。

【備考】

テーマ：地域再生と里山保全

科　目　名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
06	通期	4単位	中　村　勝　之

【講義概要・学習目標】

「暇」であるのは人間最大の武器である。暇だからこそ色んな事にチャレンジできるし、色んな考えも湧いてくる。持て余す位ならば暇なんぞいらない。１年かけて「本を読む」トレーニングを積んでみないか。この演習はそのために提供される。

この演習での目標は２つ。参加者が（１）論理＆推理力を獲得する。（２）コトバの真の意味を体得する。これらは今後のあらゆる局面で必ず必要になる。それを今のうちから身につけておこう。

【講義計画】

この演習を通じて「KJ法」という手法を用いる。具体的にはテキストの該当箇所を精読し、その中から「キーワード」を考えられるだけあげてもらう。次にあげたキーワードから、幾つかの共通項で「グループ化」する作業を行う。最後にグループ化された共通項を論旨にそって結びつけ、それを「フローチャート」という絵にしていく。

なおこれら一連の作業は、参加者全員で行う。

【成績評価の方法】

①基本は、演習初期段階と最終段階で行われる「テスト」の出来栄えで評価する。
②①に対する加点措置として、秋学期を中心に何度か「小レポート」を提出してもらう。
③出席は成績評価に一切反映されない。

【教科書】

「授業計画」で示した方法にしたがって、手始めに
林望『知性の磨きかた』(PHP新書)
を読破していく。演習期間中にこれが読破できたら、別のテキストにチャレンジしていく。

【参考文献】

川喜田二郎（1967)『発想法』中公新書136
川喜田二郎（1970)『続・発想法』中公新書210

【備考】

演習情報についてはホームページ（http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura/）を参照すること。
テーマ：KJ法的文章理解法

科目名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
07	通期	4単位	松本　誠

【講義概要・学習目標】
21世紀社会は「国家」が後退し、地方自治体を中心とした分権型社会が日本でも急激に進む。その中心的課題となるのは、地域が自立できる地域政策と住民主体のまちづくりを進める住民自治である。
　こうした、新しい地域政策とまちづくりを進めるための課題は何か。本演習では、分権型社会における政治、経済、社会の各分野における新しい地域政策のあり方を学び、新しいまちづくりに取り組んでいく課題を、多彩な実践事例から学ぶことをめざす。
　担当教員は長年にわたり新聞記者として地域づくり、まちづくり、地方自治の現場をジャーナリストの視点から観察し、報道・評論するとともに、市民が担うまちづくり活動を実践してきた。幅広い視野から、新しい社会のあり方や学生諸君のアプローチの仕方をともに学び、力をつけていきたい。

【講義計画】
本演習では、上記の目標を達成するために、以下のプロセスによって演習を進める。

1．テキストを読み込みながら、ポイントを整理する。
2．各回の演習ごとに、その回の担当者が担当した部分をレジュメにまとめて報告する。
3．報告を聞いて、出席者全員で問題点や疑問点を出し合い、質疑応答の形で議論を進める
4．教員が報告内容や出席者の発言に対してアドバイスや解説を行い、その日のテーマを確認する。
5．報告者は、その日の議論を集約し、次回の演習の際に文書にまとめて報告する。

【成績評価の方法】
期末のレポートのほか、授業中の発表や理解度等を加味して評価する。

【教科書】
田村　明著　「まちづくりの実践」（岩波新書）
神野直彦著　「地域再生の経済学」（中公新書）

【参考文献】
田村　明著　「まちづくりの発想」（岩波新書）
地域情報会議編著　「地域の価値を創る」（時事通信社）
川村健一+小門裕幸著　「サステイナブル・コミュニティ」（学芸出版社）
松本　誠著　「市民が変える明石のまち」（文理閣）

【備考】
テーマ：地域政策とまちづくりを考える

科目名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
08	通期	4単位	三原裕子

【講義概要・学習目標】
　身の回りの経済に関する素朴な疑問を、１年間をかけて基本的な文献や新書を読むことを通じて謎解きをすることを目的とします。「文献を読む」ということは本当に大変な作業です。字面を追うことを読んだ、というのではなく、文献を読む中で、その文章が何を意味しているかを正確に読み取り、理解し、自らの言葉で変換でき、かつ平易な言葉で他者に説明できて初めて「文献を読んだ」といえるでしょう。
　そこで、本ゼミでは各自が疑問に思う事に関する文献を読み、文章まとめてゼミ参加者にきちんと説明し、さらに議論を行うことで、本を読む力を養うことを目的とします。

【講義計画】
1．平易な文献を読むことで、読み方およびまとめかたを身につけます。
2．1．と同時に自らが関心のあるテキストを選びます。
3．選んだテキストに沿って、ゼミ発表を行います。
　ただし、発表の際には必ずレジメを用意してください。

【成績評価の方法】
・出席状況（全体評価の２割程）
・ゼミ報告姿勢および参加姿勢
・必要に応じてレポート提出を課す場合も有

【備考】
テーマ：経済学を学んでみる

科　目　名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
09	通期	4単位	山　田　雄　久

【講義概要・学習目標】

経済学部の学生を対象に、日本経済の飛躍的な成長が見られた高度成長期を取り上げ、戦後の日本社会の足跡について考えます。戦後60年をむかえ、日本は数々の新たな課題に直面していますが、それらを解決するための歴史的前提について再確認します。

本演習は教養的な意味を多分に有することから、身近な疑問より出発して、経済的側面だけでなく、政策的かつ社会的な観点に基づいて理解を深めます。戦後については社会史的なアプローチも参考になるものと思われます。演習では参加者が自由な立場から、お互いに歴史を語ることで、身近な問題として経済をとらえることを目標とします。

【講義計画】

参加者は各自の分担箇所をあらかじめ読み、要点をまとめて演習の時間に報告します。報告の練習とあわせて、文献を読む練習となるよう、適宜わからない箇所について調べ、興味を深めることが肝要です。また他の参加者の報告を聞くことで、自分自身の報告スタイルを確立できればと考えます。

演習で取り上げる内容については、授業中に話し合って決める予定です。

【成績評価の方法】

授業の内容について、簡単なレポートの作成をお願いします。参加時の学習内容に応じて評価を行います。

【教科書】

猪木武徳『経済成長の果実』中央公論新社（参加者には授業内容部分のコピーを配布します）

【参考文献】

橋本寿朗『戦後の日本経済』岩波新書、1995年

【備考】

テーマ：戦後日本の高度経済成長について考える

科　目　名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
10	通期	4単位	吉　川　真　裕

【講義概要・学習目標】

世界的なベストセラーであるロバート・キヨサキの『金持ち父さん』シリーズの一冊をテキストとして、世の中の仕組みについて考えることを目的とする。なお、後期にはテキストの考え方をより深く理解するために、著者が考案したボードゲーム『キャッシュフロー101』を全員でプレイしてもらう予定である。

「よく勉強して、良い学校を出て、良い会社に勤めることがお金持ちになることにはつながらない」という著者の主張は、勉強しなくてもお金持ちになれるということではない。学校では教えられない「お金」に関する勉強が必要であるというのが著者の主張である。あなたも「金持ち父さんの世界」を覗いてみませんか？

【講義計画】

以下の順でテキストに沿って、発表と議論を行う。

1．ダビデはなぜ巨人ゴリアテに戦いを挑んだか
2．若くして豊かに引退する方法
3．なぜできるだけ早く引退するのがいいのか
4．私はこうやって早期引退を実現した
5．どうしたら早く引退できるか
6．頭脳のレバレッジで現実を広げる
7．あなたは何が危険だと思うか
8．仕事量を減らして収入を増やす
9．金持ちになる一番の近道
10．あなたのプランは遅いか、早いか
11．豊かに未来を見ることのレバレッジ
12．一貫性のレバレッジ
13．童話のレバレッジ
14．気前よさのレバレッジ
15．習慣のレバレッジ
16．あなたのお金のレバレッジ
17．不動産のレバレッジ
18．紙の資産のレバレッジ
19．Ｂクワドラント・ビジネスのレバレッジ
20．とっておきのヒント
21．最終試験
22．やり続けるにはどうしたらいいか
23．人生の豊かな恵みを受け取る

【成績評価の方法】

授業態度によって評価する。
事前にテキストを読んできて、議論に参加することが単位取得の条件であるので、意欲のある学生の参加を望む。

【教科書】

ロバート・キヨサキ、シャロン・レクター『金持ち父さんの若くして豊かに引退する方法』筑摩書房、2003年、2200円+税。

【参考文献】

『金持ち父さん 貧乏父さん』筑摩書房、2000年。
『金持ち父さんのキャッシュフロー・クワドラント』筑摩、2001年。
『金持ち父さんの投資ガイド 入門編』筑摩、2002年。
『金持ち父さんの投資ガイド 上級編』筑摩、2002年。
『金持ち父さんの子供はみんな天才』筑摩、2002年。
『金持ち父さんの予言』筑摩、2004年。
『金持ち父さんの金持ちになるガイドブック』筑摩、2004年。
『金持ち父さんのサクセス・ストーリーズ』筑摩、2004年。
『金持ち父さんのビジネススクール セカンドエディション』マイクロマガジン、2004年。
『金持ち父さんのパワー投資術』筑摩、2005年。
『金持ち父さんの学校では教えてくれないお金の秘密』筑摩、2006年。
『金持ち父さんの起業する前に必ず読む本』筑摩、2006年。

以下のサイトに最新の情報がある。
英語ホームページ（http://www.richdad.com）
日本語ホームページ（http://richdad-jp.com/top.html）

【備考】

テーマ：「金持ち父さん」に学ぶ

科目名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
11	通期	4単位	吉川 真裕

【講義概要・学習目標】

株式会社の仕組みや株式市場の仕組みを学習し、インターネットを使ったシュミレーション（投資ゲーム）を通じて株式投資を自分で行えるようになることを目的とする。

株式会社や株式市場、株式投資を理解することは現代の社会を理解する上で不可欠なだけでなく、安定した老後の生活を送るためにもなくてはならないものである。銀行預金や国債だけではインフレの生じやすい現代の世の中で長期にわたって購買力を保持することは困難である。また、リスクをとらない活動ばかりでは経済成長も限られてしまう。株式投資はギャンブルにもなるが、使い方を間違わなければ有利な資産運用方法であり、そのことを知っているのといないのでは大きな差がついてしまう。

なお、デイトレードで生活していこうと考えているような人に直接役立つというような内容ではない。

【講義計画】

まず、グループごとに分かれてテキストの内容を発表してもらい、その内容について議論していく形で進める。それと同時に、グループごとに株式投資のシュミレーションを行ってもらう。

後半では各自が株式投資のシュミレーションを行い、その成果を発表してもらう。

テキストの構成は以下の通り。

1．株式会社とは何か
2．会社経営の仕組みはどうなっているか
3．「お金の流れ」から「資金調達」まですべて
4．これからの会社はどう変わるのか
5．給料・ボーナスの仕組みから勤務形態、年金まで

【成績評価の方法】

①授業態度と②株式投資シュミレーションに関するレポートに基づいて評価する。

【教科書】

高橋元『「株式会社」のしくみがわかる本』、三笠書房（知的生きかた文庫）、533円+税。なお、この本は品切れのため、コピーを配布するが、興味のある学生は古本屋か、ネット書店（アマゾン等）で探してほしい。

【参考文献】

図書館にある指定図書３冊。

【備考】

テーマ：株式投資を学ぶ

科目名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担当者
12	通期	4単位	道上 真有

【講義概要・学習目標】

「BRICs経済と日本」というテーマで１年間、さまざまな本を読んでBRICs経済についての知識、そして日本とこの経済との関係について考えることを目標とします。

国際情勢ではBRICs（Brazilブラジル，Russiaロシア，Indiaインド，China中国）についての話題や記事が、日本経済新聞を初め各誌に登場し、とても注目されています。学生たちが大学を卒業して社会人になり、やがて責任ある立場で活躍するとき、BRICsについての情勢に精通しておくことは必ず必要になってくるでしょう。日本にとって、ロシアと中国はすぐお隣の国ですし、ブラジルとインドは日本が国際連合安全保障理事会で一緒に常任理事国入りを目指すＧ４の仲間だからです。もう今は、国境のないグローバル社会。外国とのかかわりなしに経済活動を行うことはできません。そんな流れに乗り遅れないように、しっかりした知識と分析力をもつことが大切です。

また、国際情勢の知識だけでなく、他国の状況を知ることで反面教師として理解できる日本のことについても理解を深めることが出来るメリットがこの演習にはあります。

【講義計画】

BRICsの話題が今流行しているとはいえ、各国の経済についての学術的な文献は中国とロシア以外はそれほどありません。そこで、最初はBRICs全般について盛んに出版されているビジネス書などを中心に輪読していくことからはじめます。

まず指定された箇所を全員が読んでまとめてきてもらいます。それをもって授業中に教員が投げかける質問に答えてもらいます。こうすることで本を読む力を養ってもらいます。分からないところはどんどん出すことも大切です。そのたびに教員も含めて一緒に考えます。もちろん教員が解説もします。

その後、少し力がついてくれば、４カ国のうちどれかひとつ自分の関心のある国を選んでもらい、その国の経済について本や記事を集めてその内容をまとめて報告してもらいます。資料を集め方も指導します。各国の経済、社会、文化、歴史などについて、２～３人のグループを作って、それぞれに報告してもらいます。とにかくこれら４カ国について少しでも慣れ親しむことを目標にしているので、集める情報などは経済だけに限りません。これらの国について、自分の関心のあるものなら何でも吸収してください。

参考のためにビデオやDVDで理解を深めることも計画しています。たとえば映画の中には、それぞれの国で暮らす人々の日常生活が描かれています。人間の日常生活は経済活動の原点ですから、その国の核心について知ることが出来る好材料です。ちなみにこれら４カ国の映画産業は、非常に質の高い映画を世に送り出しています。

【成績評価の方法】

出席点と演習中の課題レポートで判断します。学期末の試験や学期末提出のレポートはありません。

全演習の中で、与えられた課題をこなしているかどうか、演習中に積極的に発言したりみんなに議論のタネを発表したりする態度は高得点をうみます。なぜならこの態度が３年生からの演習取り組み方や就職活動に役立つからです。

【教科書】

『BRICs 新興する大国と日本』門倉貴史、平凡社新書、2006年、798円

【参考文献】

『BRICs　持続的成長の可能性と課題』みずほ総合研究所、東洋経済新報社、2006年、1890円

他、授業中に紹介します。必要な場合は、コピーして配布します。

【備考】

テーマ：BRICs（ブリックス）経済と日本

科　目　名			
演習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
13	通期	4単位	荒　木　英　一

【講義概要・学習目標】
演習Ⅱは、読み書きの練習を通じて、みなさんの日本語表現能力を高めるための科目です。といっても、難しい漢字や言い回しを覚えることが目標ではありません。自然な語彙と正しい文法で、言いたいことを的確に表現できるようになるための、日本語スピーキングと日本語ライティングの演習を行います。
私は国語のプロではありませんが、新聞記事や経済専門書を読んでいて、ずいぶんとおかしな日本語表現だなぁと感じることがよくあります。そんな時にはいつも、「人のふり見て我がふり直せ」というフレーズを思い出して、もっと国語を勉強しなくちゃと思うわけです。だから、この演習を担当することは、私にとっても有益なはずです。かなりの力を入れて演習をすすめていくつもりです。やる気のあるみなさん、私と一緒に作文の訓練をしてみませんか。

【講義計画】
前半は、流行のマンガ本などを読み、とりあげられている問題についてみんなで話し合いましょう。さらに、自分の言葉で、読んだ文章の内容を要約する練習をします。後半は、すこし難しい文章に挑戦するとともに、自分の考えを整理してまとめていく練習もしましょう。

【成績評価の方法】
出席と、何回かの課題提出。

【教科書】
基本的に、いろんな書物の一部分をコピーして配布していきます。

【備考】
テーマ：人のふり見て、我がふり・・・

科　目　名			
応用言語学			
クラス	講義区分	単位数	担　当　者
	秋学期集中	4単位	橋　内　　武

【講義概要・学習目標】
応用言語学は、1940年代後半から50年代前半にかけて言語学の異言語教育への応用として成立したが、現在では学際的言語学として言語学と隣接科学の中間領域に位置づけられている。その他に、言語問題の学という立場や「ことばの職業」研究であるという立場もあり、一筋縄ではいかないのが、応用言語学である。本講では、これら４つの応用言語学についての基本事項を講ずることをもって応用言語学への誘いとする。履修者にことばの多面性に気付いてもらい、将来日本語教師や言語聴覚士などのことばの職業に就くために必要なことばに対する見方を養ってもらうことが、学習目標となる。

【講義計画】
１．応用言語学とは何か－目的と対象と方法
２．言語問題の学－言語障害、識字、
　　言語の消滅、ことばの乱れ、誤訳
３．異言語教育学－教授法、教師・学習者、教材、辞書、評価
４．学際的言語学－神経言語学、心理言語学、人類言語学、社会言語学、法言語学、経済言語学など
５．「ことばの職業」研究－英語教員、日本語教師、言語聴覚士、通訳、

【成績評価の方法】
授業への出席と積極的参加：20%
レポート（Ａ４　ワープロ３枚1200字）：20%
期末試験：60%

【教科書】
橋内　武　『ディスコース』　くろしお出版　1999
山内進編著　『言語教育学入門』　大修館書店　2003

【参考文献】
小池生夫編　『応用言語学事典』　研究社　2003
白畑知彦ほか著　『英語教育用語辞典』　大修館書店　1999
ジョンソン・ジョンソン編（岡秀夫監訳）　『外国語教育学大辞典』　大修館書店　1999
鈴木貞次編　『言語科学の百科事典』　丸善　2006

【備考】
＜02～06生＞
共通自由科目として、LE・LI生対象外
LE・LI生は学科教育科目